

令和2年度入学生

授業計画書

— S Y L L A B U S —

【総合文化学科】



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス



目 次

学修の心得	1
総合文化学科での履修に際して	9
開講科目一覧 総合文化学科	13
総合文化学科科学びの概念図	15

基礎科目

哲学	17
文学	17
心理学	18
音楽	18
経済学	19
日本国憲法	19
市民社会と図書館	20
数学	20
人間と自然	21
生物と栄養	21
しまね地域共生学入門	22
しまね文化論	22
しまねボランティア研修	23
健康スポーツ概論	23
健康スポーツⅠ	24
健康スポーツⅡ	24
健康スポーツⅢ	25
キャリア・プランニング	25
インターンシップ	26
キャリア・アップ講座	26
情報基礎	27
情報応用	27
コンピュータ・リテラシーⅠ	28
コンピュータ・リテラシーⅡ	28
コンピュータ・リテラシーⅢ	29
コンピュータ・リテラシーⅣ	29

専門科目

総合文化基礎ゼミナール	31
総合文化ゼミナールⅠ	31
総合文化ゼミナールⅡ	32
日本語表現演習	33
文化情報表現法	34
文化情報誌制作	34
民俗学	35
日本文化論Ⅰ（表象文化）	35
日本文化論Ⅱ（現代文化）	36
英米の社会と文化	36
アフリカの社会と文化	37
東アジアの社会と文化Ⅰ	37
東アジアの社会と文化Ⅱ	38
文学と文化Ⅰ（日本近代文学A）	38
文学と文化Ⅱ（日本近代文学B）	39
文学と文化Ⅲ（日本古典文学）	39
文学と文化Ⅳ（英米文学A）	40
文学と文化Ⅴ（英米文学B）	40
日本文化特論Ⅰ（妖怪学）	41
日本文化特論Ⅱ（しまねの祭りと芸能）	41
英米文化特論（へるん）	42
日本の言語と文化Ⅰ	42
日本の言語と文化Ⅱ	43
日本の言語と文化Ⅲ	43
英米の言語と文化Ⅰ	44
英米の言語と文化Ⅱ	44
英米の言語と文化Ⅲ	45
英米の言語と文化Ⅳ	45
中国の言語と文化Ⅰ	46
中国の言語と文化Ⅱ	47
韓国の言語と文化Ⅰ	47
韓国の言語と文化Ⅱ	48
しまねの文化を歩く	48
しまね歴史探訪	49
異文化理解演習	49
へるん探求	50
文化とガイド	50
読み聞かせの実践	51
総合文化研修計画Ⅰ	51
総合文化研修Ⅰ	52
総合文化研修計画Ⅱ	52
総合文化研修Ⅱ	53
海外企業研修	53

学修の心得

1. 大学での学修

大学に入学して最初にすべきこと。それは、入学から卒業までの大学生活全体を見通して、学びのイメージを自分なりに描いてみることです。

大学での学修は、高校までの学習スタイルとは大きく異なります。高校までは各学年、各クラスで時間割が最初から定められています。大学では学生一人一人が学期（春学期・秋学期）ごとに自分の時間割を作成します。科目数も高校までと比べて格段に多くなり、学生は各学科で定められた必修授業以外に、学びの関心や取得する資格・卒業後の進路などに基づいて受講したい科目を選択して時間割を作成し、その時間割に従って各自が授業を受講していきます。つまり、大学では、これまで以上にみずから主体的に学ぶ姿勢が必要となるのです。

各学部・学科においては、それぞれの学びの目的に従ってカリキュラム（教育課程）が編成されています。卒業や資格取得に必要な科目と履修単位数など、履修の仕方にも一定のルールがありますので、そのことをよく理解して計画を立ててください。

松江キャンパスにおける学修の大まかな流れは、学期ごとに以下の1～5のとおりとなります。以下、この順に従って、学修の流れについてポイントを説明します。

1 学修計画 → 2 履修登録 → 3 受講 → 4 期末試験 → 5 成績評価
--

2. 学修計画

(1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

各学部・学科は、大学での学修の到達目標として、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。その目標に向けて学修の道筋を示したものがカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）です。この2つのポリシーは学修計画の基本となるものですので、よく確認しておいてください。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目の編成をわかりやすく示した「カリキュラムマップ」もありますので、参考にしてください。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップは授業計画書を参照してください。

(2) 学期と授業

1年間を春学期・秋学期の2つの学期に分けています。授業の実施方法は、時間割により毎週開講される「通常授業」と、時間割によらず、休業期間などを利用して特定の期間に集中して開講される「集中講義」や各種「学外実習」に区分されます。

春 学 期	秋 学 期
4月1日 ～ 9月30日	10月1日 ～ 3月31日

(3) 授業時間

授業は、通常 1 時限 90 分を基準として行います。本学の基本的な授業時間は次のとおりですが、授業科目によっては集中講義や演習、実習などで授業時間が変動する場合があります。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

(4) 単位制

単位制とは、授業科目を履修することで定められた単位数を取得し、卒業、あるいは免許・資格の取得ができる制度のことです。

通常の講義形式の授業（90 分×15 回）を履修することによって、1 科目あたり 2 単位取得できます。

ただし、講義や演習、実技などの授業の形式や授業の時間数によって、取得できる単位数は科目ごとに異なりますので、授業計画書でよく確認してください。

また、単位制の考え方においては、その前提として授業以外の自主学習（予習・復習）を確実に行うことが求められています。

【単位数と学修時間について】

単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを原則とし、科目ごとに定められています。

本学では 1 コマ（1 回）90 分の授業を 2 時間の授業とみなしており、多くの科目において 15 コマ（15 回）30 時間の授業をしています（科目によっては 7.5 コマ 15 時間等もあります）。

1 単位の授業科目においては 45 時間の学修が必要ですから、すなわち 15 時間の授業外での自主学習（予習や復習等）が必要となります（2 単位の科目であれば、30 時間（1 回の授業につき 2 時間）の自主学習が必要ということになります）。

単位が認められるには授業時間だけでなく、自主学習を行う時間が前提としてあることに留意してください。

（参考）卒業に必要な単位数

学 部	学 科	卒業に必要な単位数
人間文化学部	保育教育学科	1 2 4 単位以上
	地域文化学科	1 2 4 単位以上
短期大学部	保育学科	6 2 単位以上
	総合文化学科	6 2 単位以上

(5) 授業科目の区分

本学の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければならない科目であって、履修して単位を修得しないと卒業できません。

②選択科目：自主的に適宜選択して履修する科目です。

*免許や資格取得のためのカリキュラムも用意していますが、これらの免許・資格取得や受験資格取得のためには、各種免許・資格ごとに履修しなければならない必修科目と選択科目がありますので、必ず、各自で確認してください。

(※各学部・学科の履修規程別表を参照してください。)

3. 履修登録

(1) 授業科目の履修登録・変更

授業科目を履修するにあたっては、「履修登録」が必要です。履修の登録・変更は、各学期始めの「履修登録期間」に行います。各学年始めには学科別履修ガイダンスで登録方法の説明を受けますが、詳細については、「情報ネットワークシステム利用の手引き」等を確認してください。また、不明な点は、各学科の担任・ゼミ担当者、または教務学生課に相談してください。

履修登録は、学生の自己責任で行うものです。入力ミスや履修登録漏れ等があった場合は、その学期での履修ができず、単位の修得も認められません。入力の際に十分確認を行ってください。

(2) 履修登録上の留意事項

① 必修科目は、翌年度以降、他の必修科目と開講時限が重なり履修できない場合がありますので、指定された年次に、必ず履修しましょう。

② 次の授業科目は履修することができません。

- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間が重複する授業科目（集中講義、実習などは除きます）

(3) 履修登録の変更

登録した科目を受講した際、「自分の受講目的と合致しない」などの理由により履修登録を変更したい場合は、履修登録変更期間内に教務学生課に「履修登録変更依頼書」を提出してください。未提出のまま履修を取りやめた場合（放棄）は、「不可」評価となり、不合格となります。

履修変更期間は学期開始後の3週目を目安とし、具体的な期日は教務日程に記載します。

(※人間文化学部履修規程第2条、短期大学部履修規程第3条を確認してください)

(4) 再履修

当該年次で単位の修得ができなかった場合は、翌年次以降、再度、当該科目を履修することができます。なお、必修科目は、卒業要件となりますので、必ず、再履修の登録を行ってください。

(注意：上記(2)①)

4. 受講

(1) 時間割（当該学期の全授業時間割）

各学期で開講される全授業の週間時間割は、春学期、秋学期の始めに教務学生課から開示します。教室等も表示されていますので確認してください。また変更がある場合がありますので、学生情報システム等で最新版を確認してください。

(2) 出席

履修登録をしている授業には出席しなければなりません。原則として、その授業科目の授業実施時間数の3分の2以上の出席を満たしていなければ試験を受けることができず、単位を修得することもできません。

(3) 欠席

やむを得ず病気等の理由により1週間以上欠席する場合は欠席届を提出してください。次のいずれかに該当する欠席は、願い出によって公欠として扱うことができます。

- ① 法令の規定による出席停止
- ② 本学が定める限度日数の範囲内の忌引
- ③ 風水震災火災その他の非常火災及び交通機関の事故等の不可抗力による欠席
- ④ その他学長が認める欠席

（※詳しくは、学生通則第15条を確認してください）

なお、次の①～⑥のいずれかに該当する欠席は公欠とはなりませんが、届け出によって教員による措置が講じられます。

- ① 教職課程及び保育士養成課程の履修登録を行っている学生が教育実習・保育実習等を行う場合（人間文化学部のみ）
- ② 海外渡航を伴う授業の受講者が査証手続きを行う場合
- ③ 学則の規定に基づき留学を許可した学生が査証手続きを行う場合
- ④ 就職活動を行う場合
- ⑤ 進学のために受験する場合
- ⑥ 上記に掲げるもののほか、担当教員が必要と認めた場合

（※詳しくは、授業運営細則第4条を確認してください）

(4) 休講

授業担当教員がやむを得ない理由により授業を休講する場合があります。その場合は担当教員からの連絡または学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認をしてください。

なお、授業開始時間10分を過ぎても授業が開始されない場合は教務学生課まで連絡してください。

また、非常変災（異常気象）その他急迫の事情があるときは授業を休講することがあります。

気象庁又は松江气象台から、松江市に警報が発表された場合の授業の取り扱いは次のとおりです。

警報発令の状況	対応措置
松江市に「特別警報」が発表された場合	直ちに休校
午前7時時点で松江市に「暴風警報」または「暴風雪警報」が発表されている場合	午前の講義（1時限、2時限）は休講
午前11時時点で松江市に「暴風警報」または「暴風雪警報」が発表されている場合	午後の講義（3時限～5時限）は休講

※ 大雪による交通機関の乱れや公道の不通等により、警報発表がない場合でも休講（休校）となる場合があります。

(5) 補講

休講等の理由で、授業時間が不足する場合に補講が行われます。その場合は学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認してください。

(6) 集中講義

授業科目によっては、短期的に集中して授業を行う場合があります。土・日、あるいは休業期間を利用して開講する場合がありますので、スケジュール確認をしっかりとってください。

5. 成績評価及び単位認定

登録した授業科目を履修し、試験その他の審査に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

(1) 試験等の受験資格

- ① 履修登録を行っていること。
- ② 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席していること。

(2) 試験等の時期

試験等は、学期末に期間を定めて行うことを基本としますが、授業科目によっては随時行う場合もあります。

(※教務日程を確認してください)

(3) 試験等の方法

試験等は、筆記、実技その他の方法により行われます。また、レポート提出や作品提出などによる方法もありますので、担当教員の指示に従ってください。

(4) 試験等の種類と手続き

① 定期試験

原則として各学期末の指定期間に行います。

なお、病気その他やむを得ない理由で受験できないときは、事前に教務学生課に連絡してください。

② 追試験

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受験できず、追試験を希望する者は「追試験願」に診断書など欠席理由を証明する書面を添えて、教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が追試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。試験方法などは授業の担当教員の指示に従ってください。

③ 再試験

試験等の結果が不合格となったときは、再試験は行いません。ただし、やむを得ず再試験を実施する場合があります。再試験を受けようとする者は、「再試験願」を教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が再試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。

(5) 不正行為

試験の代理受験や試験実施中のカンニング、監督者の注意等に従わない等の不正行為が認められた場合、受験を継続することができず、次の措置がとられます。

- ・当該学期の授業科目の履修が全て無効になります。
- ・学則（人間文化学部 49 条、短期大学部 44 条）の規定に基づき懲戒の対象となります。

また、論文、レポートにおける剽窃行為（他人の作品や論文の成果を、自分のものとして発表すること）についても不正行為となり、同様の措置がとられます。

(6) 成績評価及び単位認定

授業科目ごとに、学修の成果を「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」に区分して評価し、「秀」、「優」、「良」、および「可」を合格として所定の単位を認定します。

「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」の評価基準は、100 点満点とする点数で、次のとおりとします。

- ① 「秀」 90 点以上
- ② 「優」 80 点以上 90 点未満
- ③ 「良」 70 点以上 80 点未満
- ④ 「可」 60 点以上 70 点未満
- ⑤ 「不可」 60 点未満

GPA (Grade Point Average) について

学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とし GPA によるスコアを算出します。GPA は下記に利用します。

- ・成績通知書
- ・編入する大学へ開示する成績情報
- ・成績優秀者奨学金及び日本学生支援機構奨学金の選定指標
- ・保育教育学科の免許状・資格の追加履修可否基準
- ・地域文化学科の免許状・資格の履修可否基準

- ・その他各種推薦に関する資料として

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
G P	4 . 0	3 . 0	2 . 0	1 . 0	0 . 0

(1) 学期 GPA の計算式

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

(2) 累積 GPA の計算式

$$\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

なお、GPA の対象となる科目については以下のような留意事項があります。

- ・「履修登録の取消」により取り消された科目は GPA の対象外となります。
- ・放棄された科目は、GPA に算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなします。
- ・累積 GPA の算定に当たり再履修科目が含まれている場合は、当初の履修登録による修得単位数及び取得 GP を算定から除外します。

この他、認定科目についても対象外となります。

不明な点がある場合は、教務学生課まで確認してください。

●詳しい内容は下記の諸規程で確認してください。

【島根県立大学人間文化学部】

- ・島根県立大学学則
- ・島根県立大学人間文化学部学生通則
- ・島根県立大学人間文化学部履修規程
- ・島根県立大学人間文化学部他の大学等における履修等に関する規程
- ・島根県立大学人間文化学部入学前既修得単位数の認定に関する規程
- ・島根県立大学学位規程

※その他、各種資格取得に関する諸規程

【島根県立大学短期大学部】

- ・ 島根県立大学短期大学部学則
- ・ 島根県立大学短期大学部学生通則
- ・ 島根県立大学短期大学部履修規程
- ・ 島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程
- ・ 島根県立大学短期大学部学位規程

総合文化学科での履修に際して

島根県立大学短期大学部（以下「本学」という）、また総合文化学科は、下に示した目的を定めて設置され、その目的のもとに学位授与の方針、教育課程の方針が打ち出されています。これらの目的、方針を十分に理解していただくことが、充実した2年間の学修活動につながります。

1. 本学の目的と総合文化学科の教育研究上の目的

目的（学則第1章より）

島根県立大学短期大学部は、地域における教育研究の拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育むことによって、課題探究力及び実践力を兼ね備えた人材を育成するとともに、地域への知の還元や地域課題解決への支援を通じて地域と協働し、地域社会の文化及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

総合文化学科の教育研究上の目的（学則第1章第1条の2の(2)）

島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識と技能を身につけ、グローバルな視点から地域社会と主体的に関わることができる人材を養成するとともに、人類学、言語学、文学、情報学等の各分野において、文化および文化資源に関する教育研究に学際的かつ多面的に取り組むこと。

2. 本学ならびに総合文化学科における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

上記の目的、教育研究上の目的を掲げながら、下に示した知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度を身に付けることを最終的な達成目標として本学教育課程は編成され、所定の単位を取得しこの課程を修了することをもって短期大学士（総合文化）の学位が授与されます。

短期大学部共通の学位授与方針

[知識・技能]

- ・ 人間と文化について基礎的な知識や技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- ・ 課題に向けて自ら考え、表現する力を身に付けている。

[関心・意欲・態度]

- ・ 人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。

総合文化学科の学位授与方針

[知識・技能]

- 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識を身に付けている。
- 情報化に対応したコンピュータの基礎的な技能を身に付けている。
- 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- 総合文化学科における幅広い学びの中から、主体的に課題を設定することができる。
- 設定した課題について、自らが思考・判断・表現するために必要な、日本語の基礎的な能力を身に付けている。

[関心・意欲・態度]

- 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度を身に付けている。

3. 本学および総合文化学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、2年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として〔基礎科目〕〔専門科目〕の科目区分を設け、以下のとおりカリキュラムポリシーを定めています。

- 人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付けるため、〔基礎科目〕に〔人間と世界の理解〕の科目群を設ける。
- 島根における地域の特色や課題について理解を深め、地域共生の精神を育むため、〔基礎科目〕の〔人間と世界の理解〕科目群の中に〔地域〕科目群を設ける。
- 保育並びに文化に関する専門性を育成するため、〔専門科目（保育学科）／専門科目（総合文化学科）〕により、両学科の教育課程に従って専門的な学びを深め、2年次に学びの集大成を図る。
- 地域における保育や文化に関心を持ち、地域で活躍できる実践力を育成するため、〔基礎科目〕〔専門科目（保育学科）／専門科目（総合文化学科）〕の全体を通して、実習、演習、フィールドワークなど体験型の学修機会を積極的に設ける。

また、上のような本学全体の編成方針のもとで、総合文化学科ではさらに次のような科目配置・実施方針を定めています。

- ① コンピュータの基礎的な技能の養成を目指して、〔基礎科目〕に〔情報リテラシー〕科目群を配置する。
- ② 主体的に課題を設定し、自ら思考・判断・表現するために必要な日本語の基礎的な能力の養成を目的として、〔専門科目〕に〔総合文化プロジェクト〕科目群を配置する。

- ③ 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識の習得を目的として、[専門科目]に [日本と世界の文化] [言語と文化] [文化資源の活用] の科目群を配置する。
- ④ 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力の養成を目指して、[専門科目]に [言語と文化] 科目群を配置する。
- ⑤ 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度の育成を目的として、[専門科目]に [文化資源の活用] [総合文化研修] の科目群を配置する。

学生のみなさんには、以上のような本学の目的、また総合文化学科の教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程編成・実施の方針をよく理解した上で、個々に合った履修計画を立て、充実した学びの2年間を送っていただきたいと思います。

次頁は、みなさんがお持ちの『学生便覧2020（令和2年度）』に記載されている学則の卒業要件に関する条項からの抜粋です。右の表では、上で述べた基礎科目・専門科目それぞれで卒業のために修得しなければならない単位数が一覧できるようになっています。令和2年度入学生のみなさんは、この入学年度の学生便覧に記載された学則ならびに履修規定、その他諸規定・細則に従って卒業までの学修活動を行うことになっています。

【参考】島根県立大学短期大学部学則（抜粋）

第5章 卒業

（卒業の要件）

第28条 本学を卒業するためには、次の各号に掲げる要件を満たさなければならない。

《中略》

(2) 総合文化学科

在学期間を2年以上とし、次の表に掲げる単位数を修得すること

科目	分野		必修科目	選択科目	各科目計	合計
基礎科目	人間と世界の理解	人間と文化	—	2単位以上	8単位以上	62 単 位 以 上
		人間と社会	—	2単位以上		
		人間と自然	—	2単位以上		
		地域	2単位	—		
	保健体育		—	1単位以上	1単位以上	
	ライフデザイン		2単位	—	2単位以上	
	情報リテラシー		1単位	—	2単位以上	
専門科目	総合文化プロジェクト		7単位	—	7単位以上	
	日本と世界の文化	「民俗学」から「日本文化論Ⅱ（現代文化）」より	—	2単位以上	20単位以上	
		「英米の社会と文化」から「東アジアの社会と文化Ⅱ」より	—	2単位以上		
		「文学と文化Ⅰ（日本近代文学A）」から「文学と文化Ⅴ（英米文学B）」より	—	2単位以上		
		「日本文化特論Ⅰ（妖怪学）」から「英米文化特論（へるん）」	—	—		
	言語と文化	「日本の言語と文化Ⅰ」から「英米の言語と文化Ⅳ」より	—	4単位以上	8単位以上	
		「中国の言語と文化Ⅰ」から「韓国の言語と文化Ⅱ」より	—	1単位以上		
	文化資源の活用		—	8単位以上	8単位以上	
総合文化研修		—				
必修を除くすべての基礎科目または専門科目から				6単位以上	6単位以上	
単位互換関連科目					—	

科目区分	授業科目	担当者	単位数		時間数	週配当時間				卒業単位	備考
			必修	選択		1年次		2年次			
						春学期	秋学期	春学期	秋学期		
専門科目	言語と文化	日本の言語と文化Ⅰ		2	30	2				4単位以上 8単位以上	
		日本の言語と文化Ⅱ		2	30		2				
		日本の言語と文化Ⅲ		2	30			2			
		英米の言語と文化Ⅰ		2	30	2					
		英米の言語と文化Ⅱ		2	30		2				
		英米の言語と文化Ⅲ		2	30			2			
		英米の言語と文化Ⅳ		2	30				2		
		中国の言語と文化Ⅰ		1	30	2					1単位以上
		中国の言語と文化Ⅱ		1	30		2				
		韓国の言語と文化Ⅰ		1	30	2					
		韓国の言語と文化Ⅱ		1	30		2				
	文化資源の活用	しまねの文化を歩く		2	30	2				8単位以上	
		しまね歴史探訪		1	15			(15)			春学期集中
		異文化理解演習		2	30	2					
		へるん探求		1	15			(15)			春学期集中
		文化とガイド		2	30				2		
		読み聞かせの実践		2	60			2			4大部と共同開講
	総合文化研修	総合文化研修計画Ⅰ		1	15	2				8単位以上	
		総合文化研修Ⅰ		1	30	(30)					春学期集中
総合文化研修計画Ⅱ			1	15	2		2		1・2年共通		
総合文化研修Ⅱ			2	60	(60)		(60)		春学期集中、1・2年共通 4大部と共同開講		
海外企業研修			2	30	(30)				春学期集中		

- 備考 1 卒業要件を満たすためには、「卒業単位」の項に定める授業科目を履修しなければならない。
- 2 半期に履修することができる単位数の上限は、原則として25単位までとする。ただし、集中講義科目についてはこのかぎりではない。
- 3 ◎を付した授業科目は必修科目である。

総合文化学科 学びの概念図

(卒業に必要な単位 62単位以上)

1年次

2年次

基礎科目

【人間と世界の理解】 哲学／経済学／数学／人間と自然／しまね地域共生学など

【保健体育】 健康・スポーツ科学概論／健康スポーツ など

【ライフデザイン】 キャリア・プランニング／インターンシップ／キャリア・アップ講座など

【情報リテラシー】 情報基礎／情報応用／コンピュータ・リテラシー など

【総合文化プロジェクト】 学びの集大成

総合文化
基礎ゼミナール

日本語表現演習

総合文化
ゼミナールⅠ
文化情報表現法

総合文化
ゼミナールⅡ
文化情報誌制作

専門科目

【日本と世界の文化】

民俗学／日本文化論／英米・アフリカ・東アジアの社会と文化／文学と文化 など

【言語と文化】

日本の言語と文化／英米の言語と文化／中国の言語と文化／韓国の言語と文化 など

【文化資源の活用】

しまねの文化を歩く／異文化理解演習／文化とガイド／へるん探求／読み聞かせの実践 など

【総合文化研修】

総合文化研修Ⅰ[国内]／総合文化研修Ⅱ[海外語学]／海外企業研修 など

ディプロマポリシー

知識・技能

- 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識を身に付けている。
- 情報化に対応したコンピュータの基礎的な技能を身に付けている。
- 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力を身に付けている。

思考力・判断力・表現力

- 総合文化学科における幅広い学びの中から、主体的に課題を設定することができる。
- 設定した課題について、自らが思考・判断・表現するために必要な、日本語の基礎的能力を身に付けている。

関心・意欲・態度

- 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度を身に付けている。

取得を支援する資格

- ・ ITパスポート・サービス接遇検定
- ・ 観光英語検定・TOEIC
- ・ 実用英語技能検定・中国語検定
- ・ CS検定 など

【總 合 文 化 學 科】 基 礎 科 目

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	哲学						
担当教員	瀬古 康雄						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010040

授業の概要	哲学への入門として、最初に西洋哲学を概観し、自分自身への問いや自分の住む世界・宇宙についての哲学的な問いをとりあげ、生と死、孤独、実存など、だれもが直面することがらについて考えます。次いで、仏教のふるさとインドの哲学を取り上げ、東洋ではどんな思索がなされ、その思索を育んだ座禅や瞑想とはどんなものなのか、実際に黙想や呼吸法をやってみたりして、難解そうな哲学をできるだけわかりやすく解説します。
授業の到達目標	この授業では、受講生に毎回、自由に質問や疑問を書いてもらい、Q&Aの形でそれらに答えながら授業を進めます。受講生の目標は次の通り。 ・哲学者たちのユニークな冒険を興味深く感じることができる。 ・自分自身の「わからなさ」、「生きづらさ」を自分なりに理解し表現できるようになる。 ・クラスの皆が、何を思い、どんなことを考えているのか、関心を持てるようになる。 ・西洋の哲学と東洋の哲学を比較しながら自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	第1回 哲学の始まり - 古代ギリシア哲学の冒険 第2回 深まる謎 - 人間であるとはどういうことか 第3回 哲学の方法 - ユニークな哲学者たちの「謎」の解き方 第4回 西洋哲学の発展 (その1) - 「我思う、ゆえに我あり」 第5回 西洋哲学の発展 (その2) - 「不完全性こそが人間の証明である」 第6回 東洋の人間学 (その1) 「十牛図」 - 「自分探し」に隠された謎 第7回 インドの風土 - インドの街角に見る生老病死と悟り 第8回 インド哲学の核心 - ウバニシャッドの「梵我一如」と仏教の「無我(無心)」 第9回 インド哲学の発展 (その1) - 「マハーバーラタ」に見る人生修行 第10回 インド哲学の発展 (その2) - 仏陀の慈悲の思想とガンディーの非暴力の思想 第11回 東洋の人間学 (その2) 「道」 - 「道を極めること」と「無為自然に生きること」 第12回 「存在と無」 - 「無」をめぐる西洋の思索と東洋の思索 第13回 西と東を結ぶ道「シルクロード」の今昔 - 戦乱・テロと平和・寛容の交錯する歴史 第14回 シルクロードから日本へ - 火山列島日本の「震災と無常観 (ものあはれ)」 第15回 宮沢賢治の心象世界 - 生命体としての宇宙・地球・人間・生きものたちの「共生」 まとめ・定期試験
テキスト	テキストは使用せず、そのつど資料を配布します。
参考文献	毎回、関連する参考文献を提示します。
評価方法	Q&A (40%)・小レポート (30%) と筆記試験 (30%) により総合的に評価します。
自己学習に関する指針	受講生は毎回、質問用紙に質問や意見、自分の答えや考えなどを記入して提出する必要があります。各自のQ&Aは授業テーマに即して匿名で紹介されるので、クラスの人たちの見解も参考にしつつ自分の考え方を吟味していただけます。また、宿題の2～3の小レポートについても、同様に反芻していただけます。
履修上の指導・留意点	授業中のQ&Aの他に、授業後に教室で、あるいは、質問内容に応じて講師控室やe-mail、哲学カフェなどで対応します。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学						
担当教員	山根 繁樹						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010020

授業の概要	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。また、映画やマンガ、アニメーションなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
授業の到達目標	(1) 文学ジャンルの広がりや説明することができる。 (2) 文学作品について自分の見解を持つことができる。 (3) 文学作品と隣接するジャンルの関わりについて説明することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション「文学」とは何か 第2回 短歌の出発 第3回 俳句の出発 第4回 口語自由詩まで 第5回 現代短歌の世界 第6回 現代俳句の世界 第7回 現代詩の展開 第8回 童話の世界 第9回 言文一致の誕生と展開 第10回 戦前の小説 第11回 戦後の小説 第12回 文学と映画 第13回 文学とアニメ 第14回 文学とマンガ 第15回 文学作品に挑戦 定期試験
テキスト	プリント配布
参考文献	伊藤整『改訂 文学入門』(講談社文芸文庫) 佐々木敦『ニッポンの文学』(講談社現代新書)
評価方法	試験 (70%) 作業課題 (30%)
自己学習に関する指針	授業で扱った作品については、必ず読んで復習しておいてください。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mailで対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校教諭)での勤務経験を生かして授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010010

授業の概要	(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。
授業の到達目標	心理学的立場から、個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目指します。 (1)多様な心理学の分野とその基礎理論が理解できるようになります。 (2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野の理解が深まります。 (3)性格・パーソナリティ、社会との関わりの中での人間行動と心理、応用心理学の分野についての基礎が理解できるようになります。
授業計画	第1回 心理学とは(オリエンテーション) 第2回 知覚と認知の世界(1)感覚器官、図と地、反転図形 第3回 知覚と認知の世界(2)錯視、奥行き知覚など 第4回 学習と記憶の世界(1)古典的学習、オペラント学習、社会的学習 第5回 学習と記憶の世界(2)記憶 感覚記憶、短期記憶、長期記憶 第6回 感情・動機づけの世界 人の感情、欲求、帰属 第7回 発達と成長の世界 ピアジェの理論、分離不安など 第8回 適応と臨床の世界 人の適応、フロイトとユングの理論、心理療法など 第9回 性格・パーソナリティの世界(1) 基礎理論 第10回 性格・パーソナリティの世界(2) 評価と検査法 第11回 社会と人間の世界 社会生活と人間行動、地域と人間 第12回 自己と対人の心理 対人魅力、対人認知、対人関係、コミュニケーション 第13回 社会・集団と組織の心理(1) 集団の特性、社会的影響 第14回 社会・集団と組織の心理(2) 社会的スキル、援助 第15回 応用の心理学と最新の心理学動向
テキスト	『心理学・入門-心理学はこんなに面白い』改訂版 サトウ タツヤ・渡邊 芳之(著) 有斐閣アルマ 必要に応じ、資料やプリントを配布します。
参考文献	授業内容に合わせて講義内で適宜紹介します。
評価方法	成績は、小テスト(70%)や課題(20%)、授業への参加姿勢(10%:発表、コメント・質問など)により総合的に評価します。
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	欠席した場合、配布資料は研究室前ボックス内にあるので、次の授業前までに入手し、事前にみておくこと。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	音楽						
担当教員	新倉 健						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010030

授業の概要	17世紀のはじめにフィレンツェで誕生したと言われるオペラは、声楽・オーケストラ・合唱など、各種演奏形態の総合であると同時に、舞台美術・衣裳・照明や文学・演劇などを統合した総合芸術である。この授業では、バロックから20世紀のまでの主要なオペラ作品を題材として取り上げ、その音楽史における位置付け、演出や美術の特長などを概説しながらDVDやVIDEOを鑑賞する。
授業の到達目標	(1)総合芸術としてのオペラに興味関心を持って鑑賞することが出来、鑑賞を通じて17世紀から20世紀に至る西洋音楽史の大きな流れを把握できる。 (2)演出や舞台美術などが作品の表現とどのように関わっているかを感じることができる。 (3)様々な時代の音楽様式に触れ、オペラと社会とのつながりについて考えることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス：オペラの誕生 第2回 バロックのオペラ：モンテヴェルディ作曲「オルフェオ」 第3回 古典派のオペラⅠ：モーツァルト作曲「フィガロの結婚」 第4回 古典派のオペラⅡ：モーツァルト作曲「ドン・ジョヴァンニ」 第5回 古典派のオペラⅢ：モーツァルト作曲「コシ・ファン・トゥット」 第6回 古典派のオペラⅣ：モーツァルト作曲「魔笛」 第7回 ロマン派のオペラⅠ：ウェーバー作曲「魔弾の射手」 第8回 ロマン派のオペラⅡ：ビゼー作曲「カルメン」 第9回 ロマン派のオペラⅢ：プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」 第10回 ロマン派のオペラⅣ：ヴェルディ作曲「トゥランドット」 第11回 ワグナーのオペラ改革：「トリスタンとイゾルデ」 第12回 20世紀のオペラⅠ：バルトーク作曲「青髭公の城」 第13回 20世紀のオペラⅡ：プロコフィエフ作曲「三つのオレンジへの恋」 第14回 20世紀のオペラⅢ：ベルク作曲「ヴォツェック」 第15回 まとめ：総合芸術としてのオペラ
テキスト	授業毎にプリント資料を配布
参考文献	
評価方法	
自己学習に関する指針	授業で扱った作品などについて、自主的に鑑賞の機会を設けて学習する
履修上の指導・留意点	授業毎にプリント資料を配布し、ミニ・レポートを課す

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	経済学						
担当教員	大塚 茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010060

授業の概要	具体的で身近な経済事象を取り上げながら経済の基本的な仕組みを理解し、いま私たちが生きている時代はどんな時代なのか、どんな課題を抱えているのか、といった大きな問題を考えしていきます。同時に、基礎的な経済用語についての知識を深め、経済関連情報を適切に処理・判断する力を蓄えていきます。
授業の到達目標	1. 基礎的な経済用語について理解を深める。 2. 経済の動きに関心を持ち、何が起きているか考える姿勢を身につける。 3. 重要な経済政策に関して当否を判断できるようになる。
授業計画	第1回 価格と物価 第2回 経済循環 第3回 景気変動 第4回 株式会社 第5回 会社の変容 第6回 格差と貧困 第7回 雇用と労働 (1) 第8回 雇用と労働 (2) 第9回 規制と自由 第10回 資本主義 第11回 財政の役割 第12回 所得税 第13回 消費税 第14回 税の原理 第15回 まとめ(現代の課題) 定期試験
テキスト	テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。
参考文献	神野直彦『「分かち合い」の経済学』岩波新書、2010年
評価方法	定期試験(70%)、毎回のミニレポート(30%)
自己学習に関する指針	授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。
履修上の指導・留意点	疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本国憲法						
担当教員	黒澤修一郎						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010070

授業の概要	この授業のテーマは、憲法についての入門的な知識を習得することです。憲法は、国家の基本的なあり方—基本的人権の保障や、統治機構(国会、内閣、裁判所など)の制度構造など—を定めています。とりわけ、この授業では、実際の事件や社会問題を豊富に取りあげることを通じて、憲法に関する具体的な理解を獲得することを目指します。
授業の到達目標	・基本的人権の保障や統治のしくみについて、概要を理解することができる。 ・憲法に関連する実際の社会問題について、広く関心を持つことができる。 ・憲法問題について考えるための入門的な知識を習得することができる。
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：基本的人権 第3回：個人の尊重と幸福追求権 第4回：法の下での平等 第5回：精神的自由権(1) 第6回：精神的自由権(2) 第7回：経済的自由権 第8回：社会権 第9回：基本的人権の重要問題 第10回：立法権と国会 第11回：行政権と内閣 第12回：司法権・裁判所・違憲審査制 第13回：平和主義 第14回：統治機構論の重要問題 第15回：まとめ 定期試験
テキスト	中村陸男編著『はじめての憲法学』(第3版、三省堂、2015年)
参考文献	適宜紹介します。
評価方法	学期末の試験の成績によって評価します。
自己学習に関する指針	予習の範囲については、毎週、指示します。
履修上の指導・留意点	特になし

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	市民社会と図書館						
担当教員							
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010050

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を支える社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。 「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。 他人に「図書館とは何か」について説明できるようになる。
授業計画	第1回 「図書館」を学ぶとは 第2回 図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能 第3回 図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法） 第4回 図書館の社会的意義①：民主主義と図書館 第5回 図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館 第6回 図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館 第7回 図書館の社会的意義④：知的創造と図書館 第8回 公共図書館の成立と展開 第9回 日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館 第10回 日本の公共図書館②：戦後の図書館 第11回 図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館） 第12回 図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館） 第13回 図書館員とライブラリアンシップ 第14回 知的自由と図書館、図書館の自由 第15回 図書館の課題と展望
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 二村健『図書館の基礎と展望 第二版』学文社、2019年 1,900円+税 『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善、2013年 3,800円+税 『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』日本図書館協会、2016年 5,500円+税
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（50%）、レポート（20%）、試験（30%） 平常点では①オピニオンペーパーの記述、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に関する指針	本学の図書館ばかりでなく、あらゆる図書館を自主見学して図書館に親しむことが大切です。
履修上の指導・留意点	

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	数学						
担当教員	奥村 泰磨						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010080

授業の概要	数学を「楽しさ」という観点で見つめ、数学の良さ、美しさ、不思議さを知ったり、身近な生活の中に数学を見い出してその有用性について考えたりすることを通して、教養を深めたい。一方的な受け身な学習とならないよう参加型の学習を適宜取り入れる。
授業の到達目標	(1)「数学」の4つの領域の独自な「楽しさ」を知る。 (2)「数学」という教科とそれ以外の様々なこととのつながりを考える。 (3)「数学」に対して新たなイメージをもつ。
授業計画	第1回 ガイダンス 数について 第2回 数と式 (1) 分数と小数 第3回 数と式 (2) 色々な無限小数 第4回 数と式 (3) 美しさにある「比」 第5回 関数 (1) 「関数」とは何か 第6回 関数 (2) 放物線の力 第7回 関数 (3) 「関数」を使って 第8回 図形 (1) 平面図形 第9回 図形 (2) 空間図形 第10回 図形 (3) 「図形」を使って 第11回 確率・統計 (1) 確率 第12回 確率・統計 (2) 統計 第13回 確率・統計 (3) 「確率・統計」を使って 第14回 数学と音楽 第15回 ふりかえり 定期試験
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて資料などを配布します。
評価方法	定期筆記試験（40%）、個人用ふりかえりシート（20%）、課題レポート（40%）
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> 授業後、個人でふりかえりシートを記入します。 予習・復習の課題レポートの提出があります。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業では積極的に参加しよう。 予習・復習の課題レポートは、自分が納得ゆくまで取り組もう。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（中学校教諭）での勤務経験を生かして、「数学」の新たな視点がもてる授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	人間と自然						
担当教員	松本 一郎						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010100

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地球環境を理解するにあたり、人間の様々な生産活動と自然現象との関係について基礎的な事項を幅広く学ぶ。その上で、人間と自然との持続可能な共存・共生関係について考え、行動に移す事ができる素養（リテラシー）を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 科学的な見知から宇宙や地球の誕生や営みを学び、地球上での生命の誕生と進化発展を理解する。その上で、人類の誕生と人類が自然とどのように共存してきたのかを学び、人口の爆発的な増加と生物の絶滅・地球温暖化など、自然が置かれた様々な現状と課題を知る。主に自然災害のメカニズムや減災・防災の知識及び行動に移すための観点を学ぶ。以上の学びを実験や観察を交えながら、個人やグループでのディスカッションを通して多様な見方・考え方の重要性を知る。それらをもとに、ESD やSDGs の考え方を参考に人類と自然の持続可能な共存・共生の在り方を考察する。</p>
授業の到達目標	<p>①大気圏・岩石圏・水圏・生態系・生物多様性についての基礎的な知識を習得する。 ②自然の恵みと災いについて理解するとともに、人間は自然に対して何をしてきたのかについて知り、私たちはこれからどうすればよいのかについて自分なりに考えることができる。 ③人間と自然との関係から学んだ様々なことを自己の言葉で説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに／私たちはどこから来たのか／自然から学ぶ疑問と感動 第2回 宇宙と地球の関係(1)：美しい星空から学ぶこと 第3回 地球の成り立ち(1)：地球の誕生(冥王代) 第4回 地球の成り立ち(2)：生命の誕生(原生代～古生代へ) 第5回 地球の成り立ち(3)：生命の大進化(中生代：恐竜の時代) 第6回 地球の成り立ち(4)：人類の誕生と進化(新生代：人類の時代) 第7回 自然の観察技法(1)：演習(岩石、鉱物、化石) 第8回 自然の観察技法(2)：演習(植物、動物) 第9回 自然の恵みを学ぶ(1)：地球の資源とエネルギー 第10回 自然の恵みを学ぶ(2)：生物多様性と農業 第11回 自然の災いを学ぶ(1)：地震、火山を考える 第12回 自然の災いを学ぶ(2)：気象災害、気候変動 第13回 野外／自然の観察 第14回 人間と自然の持続可能な発展に向けて(1)：環境教育とESD 第15回 人間と自然の持続可能な発展に向けて(2)：SDGs と Society5.0 定期試験</p>
テキスト	とくに使用しない。
参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	<p>●単位認定は、定期試験(50%)、課題レポート(ミニッツ・ペーパー)(50%)によって総合的に評価する。 ●到達目標①および②は定期試験によって、到達目標③は授業参加と課題レポート(ミニッツ・ペーパー)によって、それぞれ評価する。 ●試験(記述問題)やレポートは、どこまで自己の言葉で書かれているかを評価する。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	毎回の授業の終わりには10分程度の学びの振り返りの時間を設け、課題や本時の概要や疑問などをまとめるミニッツ・ペーパーを作成し提出する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M6010090

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生物(特にヒトを含む哺乳動物)のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造(器官や細胞)へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅(過程)を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間(ヒト)と健康」に関わる諸課題についても考察する。</p>
授業の到達目標	<p>1. ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。 2. 栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。 3. ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べるができる。</p>
授業計画	<p>1 「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 2 ヒトの消化器系の全体像、口腔の話(口から始まる消化作用) 3 胃の話(主役は3つの細胞)・腸の話(絨毛のような内面) 4 胃と腸のビデオ視聴 5 いろいろな哺乳動物の歯について 6 食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 7 糖質の消化・吸収、糖質の栄養 8 タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 9 脂質の消化・吸収、脂質の栄養 10 カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 11 エネルギー代謝について 12 あなた自身はどんな食事をしていますか 13 食事バランスガイドについて 14 食べ物と健康について 15 全体のまとめ 定期試験 試験あり</p>
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	<p>①「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社 ②「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社</p>
評価方法	試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。評価基準は、質問感想カードの提出20%、課題レポートの提出30%、試験50%を考慮して総合的に評価します。
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。
履修上の指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	島根県立大学教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M6010110

授業の概要	<p>この講義は、各学部・学科における専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年來直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から論じる。そうした課題は、今後の日本の多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかを再認識し、複合的対応の重要性についての理解を深める。</p> <p>また、学問的見地においても、ひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。</p> <p>これらの目的に照らし、さしあたり本講義では3キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根県にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われないう、人々の人生における代表的なライフステージ(3段階)を共通で用いる。このことを通じて、島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。</p> <p>本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践すること」が求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。</p> <p>※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して3キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県の課題について理解し、日本全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。 ・地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。 ・以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。
授業計画	<p>第1週 島根県立大学へようこそ一開講にあたってー〔学長 清原正義・全学開講責任者〕</p> <p>第2週 地図とデータでみる島根県〔浜田キャンパス 林秀司〕</p> <p>第3週 なぜ島根県の出生率と女性の労働参加率は高いのか〔浜田キャンパス 藤原真砂〕</p> <p>第4週 人生100年時代の食育〔出雲キャンパス 名和田清子〕</p> <p>第5週 絵本をめぐる冒険～読み聞かせでつながる地域社会～〔松江キャンパス 岩田英作〕</p> <p>第6週 シティズンシップと公共哲学〔浜田キャンパス 松尾哲也〕</p> <p>第7週 がん患者に対する就労支援〔出雲キャンパス 森山美香〕</p> <p>第8週 社会的養護と島根県の里親〔松江キャンパス 藤原映久〕</p> <p>第9週 高齢者における地域子育て支援〔松江キャンパス 前林英貴〕</p> <p>第10週 地域で暮らす高齢者の介護予防〔出雲キャンパス 林健司〕</p> <p>第11週 中小企業における事業承継問題の現状と対策〔浜田キャンパス 久保田典男〕</p> <p>第12週 島根県の政策展開(仮題)〔外部講師〕</p> <p>第13週 地域課題への実践的取組(仮題)〔外部講師〕</p> <p>第14週 まとめ(仮題)〔全学開講責任者〕</p> <p>第15週 学部・学科の学びに向けて〔学部長または副学長〕</p>
テキスト	各回週の担当教員が指定することがある。
参考文献	各回週の担当教員が紹介する。
評価方法	授業に出席することを前提とし、授業への取り組み姿勢、各週の授業で実施する小テストの結果を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	<p>本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は1年生を標準履修年次としており、どちらかといえば、これからの修学期間地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。具体的には、地域志向科目の履修がひとつの目安となる。</p> <p>また、本講義は企業や行政機関等での実務経験のある外部講師による授業回を2回設けており、より実践的な取り組みの内容を学ぶことができるように授業設計している。</p>

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	しまね文化論						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8010010

授業の概要	<p>本科目は、松江城、出雲大社、石見銀山など、島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、基礎的な知識を修得し、しまねの地域資源の価値と、それらに誇りを持って未来へ継承することの意義を理解することを目的とする。授業はオムニバス形式で行い、各テーマにふさわしい専門家や実践者による講義を通して、島根県における伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来へ向けた取組みなどを学習する。さらに、学外見学会を実施することで学習内容の理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>出雲、石見、隠岐が有する様々な文化について理解し、それぞれの特徴や歴史的背景を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(人間文化学部教員)</p> <p>第2回 神々の国しまね(1)(出雲大社) 外部講師:千家和比古氏(出雲大社権宮司)</p> <p>第3回 神々の国しまね(2)(神話) 外部講師:錦田剛志氏(万九千神社宮司)</p> <p>第4回 しまねの日本遺産(たたら製鉄) 外部講師:井上裕司氏(株式会社田部たたら事業部次長)</p> <p>第5回 しまねの地質資源(隠岐世界ジオパーク) 外部講師:野辺一寛氏(隠岐の島町役場課長)</p> <p>第6回 しまねの世界遺産(石見銀山) 外部講師:仲野義文氏(石見銀山資料館館長)</p> <p>第7回 しまねの自然 外部講師:中村唯史氏(島根県立三瓶自然館)</p> <p>第8回 フィールドワーク事前学習(人間文化学部教員)</p> <p>第9回 フィールドワーク(石見銀山)[11月28日(土)実施]</p> <p>第10回 しまねの食文化(1)(松江の茶文化) 外部講師:中村寿男氏(中村茶舗代表取締役)</p> <p>第11回 しまねの食文化(2)(次世代への継承) 外部講師:景山直観氏(一文字家社長)</p> <p>第12回 しまねの国宝(松江城) 外部講師:卜部吉博氏(元松江市松江城調査研究室長)</p> <p>第13回 しまねの伝統芸能(神楽) 外部講師:藤原宏夫氏(島根県教育庁文化財課)</p> <p>第14回 しまねの文化の魅力</p> <p>第15回 しまねの文化の魅力を考えるーグループワーク、学生発表</p> <p>※外部講師招聘のため、順番が入れ替わる場合がある。</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	各回の小テストの結果、課題提出、コメントシート、発表など、授業への取組み状況を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	11月28日(土)にフィールドワーク実施。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	県立青少年の家 社会教育主事						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010170

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験活動プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の到達目標	1. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。 2. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。 3. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。
授業計画	第1回 事前学習…<4月16日(木)18:10～19:40 1コマ：県立大学松江キャンパス> (青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解) 第2回 実習①「ボランティア(体験活動支援者)養成講座」…<5月30日～31日(土・日)：県立青少年の家> ・講義(ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習) ・演習(青少年の家のプログラム体験・振り返り) 第3回 実習②「ボランティア(体験活動支援者)実習」(7月～12月で1つを選択：県立青少年の家)> 選択事業の例 ・サマーチャレンジ(小6～高1対象) …8月 ・キッズチャレンジ(小4～小6対象) …7月、10月(2回) ・キッズチャレンジ(小1～小3対象) …9月、11月(2回) ・にんにんチャレンジ(年長対象) …11月～12月(2回) ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。 第4回 事後学習<1月23日(土)AM 3コマ：県立大学松江キャンパス> ・グループワークによるシェア及びグループ発表
テキスト	上記第2回～第3回については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	・実習における積極性、参加態度、ならびに、発表の内容、提出課題等で、総合的に判断する。 ・本科目の性質上、1回でも欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に関する指針	第2回の養成講座受講後、第3回のボランティア実習に向けて、青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。(例年：約2,000円) ・定員は36名とする。 ・履修希望者は、4月13日(月)までに登録の上、第1回事前学習(4/16)に必ず出席すること。 (希望者が定員を上回った場合は、抽選・その他の方法で選抜を行う)

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本 強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010130

授業の概要	競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ、スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに、大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また、スポーツ活動を通じたパーソナリティ形成や社会性の発達についての知識を修得し、スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し、競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。
授業の到達目標	(1)健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。 (2)現代的スポーツ事情、スポーツ諸課題について論述することができる。
授業計画	第1回 日本のスポーツ政策と現状(国、地方自治体のスポーツ推進計画) 第2回 スポーツとは? スポーツの高度化、大衆化について 第3回 競技スポーツと健康志向スポーツについて 第4回 スポーツのパーソナリティ形成と二面性について 第5回 スポーツ集団への関わり方、チームワークのメカニズムと形成の考え方 第6回 スポーツのための食と液体補給 第7回 運動・休養・栄養と生活リズム 第8回 救急処置と救急蘇生法、まとめ 定期試験
テキスト	なし
参考文献	毎回、プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ(小テスト)＝30% 筆記試験＝70%
自己学習に関する指針	配付資料を再読し、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	毎回、授業終わりに小テストを行う。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(中学校教諭)での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	健康スポーツⅠ						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010140

授業の概要	健康スポーツⅠでは、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツやダンスを通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団の中の一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動（ストレッチングを含む）の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習、ダンス（フォークダンス・レクレーションダンス・日本民謡）からゲームの仕方、ルール、技術、技能を学修し、生涯スポーツ、生涯ダンスの取組を見据えた授業とする。
授業の到達目標	(1)生涯スポーツ・生涯ダンスの観点から個人種目やチームスポーツ、各種ダンスに取り組み、多種目の技術、技能を身につけることができる。 (2)自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、受講者で協力してゲームを運営したり、ダンスを通して仲間と交流したりすることができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション、準備運動の方法及びストレッチング、リズム運動 第2回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールの基礎・基本 第3回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールのミニゲーム 第4回 スポーツ種別特性の理解と実践 バasketボールゲーム（リンク式） 第5回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球の基礎・基本 第6回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球のゲーム（シングルス） 第7回 スポーツ種別特性の理解と実践 バドミントン・卓球のゲーム（ダブルス） 第8回 スポーツ種別特性の理解と実践 ソフトバレーボールの基礎・基本 第9回 スポーツ種別特性の理解と実践 ソフトバレーボールのゲーム 第10回 スポーツ種別特性の理解と実践 スポーツ大会企画・運営・準備 第11回 スポーツ種別特性の理解と実践 スポーツ大会企画・運営・準備 第12回 ダンス種別特性の理解と実践 フォークダンス入門 第13回 ダンス種別特性の理解と実践 フォークダンスの基礎・基本 第14回 スポーツ・ダンスの種目選択でのワークショップ型交流会1 第15回 スポーツ・ダンスの種目選択でのワークショップ型交流会2
テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	「関心・意欲・態度」=40%、「技術・技能」=30%、「課題レポート」=30%とし、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	スポーツやダンスのもつ教育的な価値や文化を享受し、自分自身の生涯にわたっての健康・体づくりを考える。
履修上の指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小学校及び教育委員会保健体育課での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	原 丈貴						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010150

授業の概要	健康スポーツⅡでは、身体組成測定器や血圧・脈拍測定器、エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など、各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し、一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムーズな展開を図るため、取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は2回行い、複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1)主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2)測定データを活用し、機器を用いたトレーニング、エクササイズ、スポーツに取り組み、自ら取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション及び各種測定 第2回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第3回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第4回 測定とグループ化①、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第5回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第6回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第7回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第8回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第9回 これまでのデータ処理と中間評価 第10回 測定とグループ化②、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第11回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第12回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第13回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第14回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第15回 データのまとめ、授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録 50%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M6010160

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1)ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2)共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第2回 ダンスの実践レベル1・リズム 第3回 ダンスの実践レベル1・ステップ 第4回 ダンスの実践レベル1・コンビネーション(簡単な振付) 第5回 ダンスの実践レベル1・レベル1のまとめのダンス 第6回 ダンスの実践レベル2・リズム&ステップ 第7回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付基礎) 第8回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付応用) 第9回 ダンスの実践レベル2・レベル2のまとめのダンス 第10回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ 第11回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付基礎) 第12回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付応用) 第13回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス基礎パターン) 第14回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス応用パターン) 第15回 まとめダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能 30%、実践記録 20%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	キャリア・プランニング						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M8010020

授業の概要	卒業後、社会の一員として生活していくための進路指導及びキャリア支援を目的とする。
授業の到達目標	1. 社会人になること、働くということを自分のこととして意識できるようになる。 2. 自分の向き不向きを自覚し、自分に合った職業を選ぶことができる。 3. 企業が求める人材について理解する。 4. 履歴書の書き方、面接の受け方など、就職活動に必要なスキルを身に付ける。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 企業(業界)・職業を知ろう①、就職サイト活用講座 第3回 企業(業界)・職業を知ろう②(企業・業界研究の仕方) 第4回 企業(業界)・職業を知ろう③(OB、OG体験談) 第5回 企業(業界)・職業を知ろう④ 第6回 ライフデザイン講座 第7回 試験対策1(SPI対策講座) 第8回 就活アプローチ1(マナー講習①/Eメール、手紙) 第9回 就活アプローチ2(マナー講習②/敬語、電話、身だしなみ) 第10回 就活アプローチ3(自己分析、自己理解) 第11回 就活アプローチ4(履歴書の書き方①説明) 第12回 就活アプローチ5(履歴書の書き方②作成) 第13回 就活アプローチ6(求人票と求職票を知る) 第14回 試験対策2(面接対策)・模擬面接 第15回 就活試験が終わって・まとめ
テキスト	「就職活動の手引き」
参考文献	「Placement Support Book」 適宜紹介、配布する
評価方法	授業態度(発表をよく聞き、質問等積極的に参加できたか)及び提出物の提出状況 50% レポート及び模擬面接(レポート記述内容、模擬面接の準備、態度) 50%
自己学習に関する指針	学内企業説明会を企業・業界研究の実践の場として活用する。
履修上の指導・留意点	保育学科と合同で実施する授業あり。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	インターンシップ						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010030

授業の概要	<p>企業・官公庁・NPO法人等で行う一定期間の就業体験（実地訓練・実習的勤務）と本学での事前・事後授業を合わせて行うことで、社会で必要とされる力、職業や業界に関する知識や「働くことの意味」、将来の自分の仕事について理解を深める。インターンシップの意義とキャリア形成との関連性、インターンシップ先の探し方等について説明する。また、ビジネスマナー研修や社会人として必要になる姿勢等も学ぶ。</p> <p>支援機関（ジョブカフェしまね）のプログラムを利用してインターンシップ実習を行う。インターンシップの事後授業では、「インターンシップでの学びを、その後の学生生活、就職活動、社会人生活にどのように活かすのか」等について学習する。</p>
授業の到達目標	<p>①インターンシップ（就業体験）の目的と意義、キャリア形成の関連性について説明できる。</p> <p>②受け入れ先企業・団体、業界理解のもとに立てた目的を振り返ることができる。</p> <p>③働くなかで自己理解を深め、今後自ら養うべき能力を自覚し、成長プランを持つ。</p> <p>④IPOをわきまえたビジネスマナーを実践することができる。</p> <p>⑤コミュニケーションほか、職場で求められる能力について理解し、説明することができる。</p> <p>⑥インターンシップで得た学びについて説明でき、その後の学生生活で活用する行動につなげる。</p>
授業計画	<p>【事前授業】 <4月～6月頃> (1) インターンシップの目的・意義、インターンシップとキャリア形成について (2) インターンシップ先の情報収集、応募書類の記入方法のガイダンス (3) 応募書類・自己PRの記載アドバイスセミナー <7月頃> (4) インターンシップ・直前準備講座（就業体験に必要なビジネスマナーを含む） 【インターンシップ実習】 (5) 夏季（夏休み）期間中に原則（30時間以上又は）5日以上の就業体験を実施する。 インターンシップ先により、実習時期や期間が異なるため学業に支障が無い範囲で参加する。 【事後授業】 <9月～10月頃> (6) インターンシップ成果報告会での発表（学外インターンシップ関係者招聘） (7) インターンシップ振り返り講座、学習成果・今後の課題をまとめる</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	インターンシップ実習前の取り組み・インターンシップ研修日誌・就業体験事業所からの評価シート・事後報告を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	不定期開講のため、日程に留意すること。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	キャリア・アップ講座						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010040

授業の概要	<p>本授業の目的は、社会に出た後に即戦力として活躍できるよう、サービスとホスピタリティの考え方・技術を学び、サービス接客検定にも対応できる力を身につけることである。</p> <p>文部科学省後援「ビジネス系検定」サイトによれば、「サービス接客」とはサービスをととして「相手に満足を提供する行動」であり、その検定試験は「サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、対応の技術、口のきき方、態度・振舞い」などを審査するものである。サービス接客の考え方とその考え方を体現する具体的な技術の習得を通してホスピタリティの精神を育て、かつ社会人に必要なコミュニケーション能力を涵養する。</p>
授業の到達目標	<p>1. サービス接客の考え方と技術とがどのように結びつか理解する。</p> <p>2. その考え方を体現する技術を習得する。</p> <p>3. 実務技能検定協会が実施し、文部科学省が後援する「サービス接客検定」受験のための能力を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 サービススタッフとして必要とされる要件、サービス知識</p> <p>第2回 商業活動、経済活動・確認テスト</p> <p>第3回 社会常識</p> <p>第4回 サービススタッフとしての人間関係の対処</p> <p>第5回 サービススタッフとしての接客知識・確認テスト</p> <p>第6回 サービススタッフとしての話し方</p> <p>第7回 サービススタッフとしての問題処理</p> <p>第8回 サービススタッフとしての実務技能・確認テスト</p> <p>定期試験</p>
テキスト	『サービス接客検定2級公式テキスト』早稲田教育出版（税込価格1,404円）
参考文献	なし
評価方法	確認テスト、定期試験の結果を総合して評価する
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	<p>本授業を受講する学生は、同年に実施されるサービス接客検定（公益財団法人実務技能検定協会主催）を受験すること。</p> <p>※令和2年度は、春学期開講とする。</p>

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	情報基礎						
担当教員	加藤 暢恵						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M8010050

授業の概要	プレゼンテーションは企画・提案や研究成果等を他者に伝える上で重要な手段のひとつである。本演習では、プレゼンテーションを行う上で必要となる基本的な知識や技術及びプレゼンテーションに必要なソフトウェアの操作技術を習得する。
授業の到達目標	(1)プレゼンテーションの役割と機能を理解できる。 (2)PowerPoint を用いて基本的なプレゼンテーションができる。
授業計画	第1回 ガイダンス 電子メール、インターネット 第2回 コンピュータの基礎知識(1) コンピュータのしくみ 第3回 コンピュータの基礎知識(2) ソフトウェア 第4回 プレゼンテーション技法(1) プレゼンテーションの基礎知識・情報収集、情報分析 第5回 プレゼンテーション技法(2) プレゼンテーションの構成・資料作成 第6回 プレゼンテーション技法(3) PowerPoint の使い方 第7回 プレゼンテーション技法(4) 発表技術 第8回 プレゼンテーション実践演習 ディスカッション(グループワーク) 第9回 プレゼンテーション実践演習 スライド作成、リハーサル 第10回 プレゼンテーション実践演習 プレゼンテーション(グループ)【テーマ指定】 第11回 プレゼンテーション実践演習 テーマの選定、情報収集、情報整理 第12回 プレゼンテーション実践演習 スライド作成、リハーサル 第13回 プレゼンテーション実践演習 プレゼンテーション(個人)【テーマ自由】 第14回 プレゼンテーション実践演習 プレゼンテーション(個人)【テーマ自由】 第15回 まとめ、実践演習のふりかえり
テキスト	「よくわかる自信がつくプレゼンテーション 引きつけて離さないテクニック 改訂版」FOM出版
参考文献	必要に応じてプリントを配布
評価方法	演習課題(50%)、小テスト(10%)、実技(40%)
自己学習に関する指針	授業内容(特にソフトウェアの操作)は、各自でしっかりと復習すること。
履修上の指導・留意点	欠席する場合は事前に連絡をすること。(グループワークを行うため)

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	情報応用						
担当教員	加藤 暢恵						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010060

授業の概要	近年、国や自治体などが保有するさまざまな公共データを、すべての人が活用できるオープンデータの取り組みが活発化している。また、オープンソースソフトウェアの活用も盛んに行われている。本演習では、オープンデータやオープンソースソフトウェアの現状を学ぶとともに、活用方法や効果的な情報発信について考える。また、プログラミングがエンジニア以外にも必要なスキルであることを知るとともに、プログラミングの「学び方を知る」ことを目的とする。
授業の到達目標	(1)オープンデータ概念を理解する。 (2)オープンソースソフトウェアの特徴を理解する。 (3)オープンデータやオープンソースソフトウェアの活用方法を提案することができる。 (4)プログラミングがエンジニア以外にも必要なスキルであることを理解する。
授業計画	第1回 情報社会と情報発信 第2回 情報メディアの活用 第3回 インターネットの活用 第4回 Progate を用いたプログラミング学習の体験 第5回 グループワーク：外部サービス等を用いたプログラミング学習の可能性と課題について 第6回 グループワーク：プレゼンテーションの準備 第7回 プレゼンテーション 第8回 OpenStreetMap の概要、基本操作 第9回 OpenStreetMap の編集 第10回 Wikipedia の概要 第11回 Wikipedia の編集 第12回 LocalWiki の概要 第13回 アイディアソン 第14回 アイディアソン 第15回 プレゼンテーション (第4回～第7回は外部講師による集中講義：2019年10月26日(土)実施予定)
テキスト	なし(必要に応じてプリント等を配布します)
参考文献	必要に応じてプリント等を配布します。
評価方法	演習課題(60%)、実技(40%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	演習中心の授業のため、不明な点は早めに質問し、解決を図ること。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	コンピュータ・リテラシーⅠ						
担当教員	小倉 佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010070

授業の概要	(ワープロ初級) この授業では、コンピュータの初心者を対象として、エンドユーザーとしてコンピュータを活用するための基本的な技能を学習する。コンピュータの操作やソフトウェアの基本的な利用法を学習するとともに、ネットワークシステム及びインターネットの基本的な利用法を学ぶ。主にワープロソフトを用い、文書作成のための技術を修得する。
授業の到達目標	基本的なコンピュータの操作、インターネットでの検索やメールの利用法を修得する。ワープロソフト (Word) の技能を、コンピュータサービス技能評価試験 (CS 試験) の3級程度まで身につけることを目指す。
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 入力の基本 (ブラインドタッチ) について、電子メールの基本 第3回 インターネットの使用法・検索、タイピング練習 第4回 ワープロソフト (1) ファイル操作と管理 第5回 ワープロソフト (2) 文書書式 第6回 ワープロソフト (3) 入力操作 第7回 ワープロソフト (4) 書式設定 第8回 ワープロソフト (5) 表の作成 第9回 ワープロソフト (6) オブジェクトの活用 第10回 ワープロソフト (7) 編集 第11回 ワープロソフト (8) 印刷 第12回 ワープロソフト (9) ビジネス文書の知識 第13回 ワープロソフト (10) 文書作成 第14回 練習問題による応用 (1) 第15回 練習問題による応用 (2) 定期試験
テキスト	授業の中で指定する
参考文献	なし
評価方法	課題提出 (50%)、試験 (50%)
自己学習に関する指針	・修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の指導・留意点	・ワープロソフト (Word) 初心者向けの授業です。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	コンピュータ・リテラシーⅡ						
担当教員	小倉 佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010080

授業の概要	(表計算初級) この授業では、コンピュータの初心者を対象とし、エンドユーザーとして表計算機能を活用するための基本的な技能を学習する。
授業の到達目標	基本的なコンピュータの操作、インターネットでの検索やメールの利用法を修得する。表計算ソフト (Excel) の技能を、コンピュータサービス技能評価試験 (CS 試験) の3級程度まで身につけることを目指す。
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 入力の基本 (ブラインドタッチ) について、電子メールの基本 第3回 インターネットの使用法・検索、タイピング練習 第4回 表計算ソフト (1) 概要 第5回 表計算ソフト (2) 基本操作 第6回 表計算ソフト (3) 入力 第7回 表計算ソフト (4) 表の作成 第8回 表計算ソフト (5) 計算 第9回 表計算ソフト (6) 関数1 第10回 表計算ソフト (7) 関数2 第11回 表計算ソフト (8) 関数3 第12回 表計算ソフト (9) グラフ作成1 第13回 表計算ソフト (10) グラフ作成2 第14回 練習問題による応用 (1) 第15回 練習問題による応用 (2) 定期試験
テキスト	授業の中で指定する
参考文献	なし
評価方法	課題提出 (50%)、試験 (50%)
自己学習に関する指針	・修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の指導・留意点	・表計算ソフト (Excel) 初心者向けの授業です。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	コンピュータ・リテラシーⅢ						
担当教員	小倉 佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010090

授業の概要	(ワープロ中級) この授業では、コンピュータ操作の基礎を修得している学生を対象とし、エンドユーザーとしてコンピュータを活用するための技能を学習する。
授業の到達目標	ワープロソフト (Word) の複雑な使用法を学び、コンピュータサービス技能評価試験 (CS 試験) の2級程度の技術を身につけることを目指す。
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 入力の基本 (ブライントタッチ) の確認、ファイル管理について 第3回 ワープロソフト (1) 基本操作の復習 1 第4回 ワープロソフト (2) 基本操作の復習 2 第5回 ワープロソフト (3) 基本操作の復習 3 第6回 ワープロソフト (4) 複数の表の使い方 第7回 ワープロソフト (5) 高度な書式設定 第8回 ワープロソフト (6) 表を使った作図 第9回 ワープロソフト (7) オートシェイプを使った作図 第10回 ワープロソフト (8) 段組み 第11回 ワープロソフト (9) 複雑な書式 1 第12回 ワープロソフト (10) 複雑な書式 2 第13回 ワープロソフト (11) ファイルの挿入やテキストボックスのリンクなど 第14回 練習問題による応用 (1) 第15回 練習問題による応用 (2) 定期試験
テキスト	授業の中で指定する
参考文献	なし
評価方法	課題提出 (50%)、試験 (50%)
自己学習に関する指針	・修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の指導・留意点	・ワープロソフトの初級程度を習得しているものを対象とする。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	コンピュータ・リテラシーⅣ						
担当教員	小倉 佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8010100

授業の概要	(表計算中級) この授業では、コンピュータ操作の基礎を修得している学生を対象とし、エンドユーザーとしてコンピュータを活用するための技能を学習する。
授業の到達目標	表計算ソフト (Excel) の複雑な使用法を学び、コンピュータサービス技能評価試験 (CS 試験) の2級程度の技術を身につけることを目指す。
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 入力の基本 (ブライントタッチ) の復習、ファイル管理について 第3回 表計算ソフト (1) 基本操作の復習 1 第4回 表計算ソフト (2) 簡単な関数の復習 第5回 表計算ソフト (3) 関数 (文字操作) 第6回 表計算ソフト (4) 関数 (match, index etc.) 第7回 表計算ソフト (5) 関数 (int, mod, floor, ceiling etc.) 第8回 表計算ソフト (6) 関数のまとめ 第9回 表計算ソフト (7) 条件付き書式 第10回 表計算ソフト (8) データベース機能 (抽出) 第11回 表計算ソフト (9) データベース機能 (集計) 第12回 表計算ソフト (10) データベース機能まとめ 第13回 表計算ソフト (11) 複雑なグラフの作り方 第14回 練習問題による応用 (1) 第15回 練習問題による応用 (2) 定期試験
テキスト	授業の中で指定する
参考文献	なし
評価方法	課題提出 (50%)、試験 (50%)
自己学習に関する指針	・修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の指導・留意点	・表計算ソフトの初級程度を習得しているものを対象とする。

【総合文化学科】 専門科目目

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化基礎ゼミナール						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M8020010

授業の概要	総合文化基礎ゼミナールは個別クラスと合同クラスによって実施する。それらの授業を通して、大学生としての学習態度および生活態度を修得することを目的とする。個別クラスでは、グループ学習やポスター発表、レポートの書き方などを行い、大学での基礎的な学習方法を学ぶ。合同クラスではネット被害・マルチ商法対策や防犯の心構えと護身術、ブラックバイトなどについてのキャンパス講習会を実施し、大学生としての生活態度を学ぶ。
授業の到達目標	(1) 大学での学習態度が身についている。 (2) 大学生としての基礎的な学習方法が身についている。 (3) 大学生としての生活態度が身についている。
授業計画	第1回 授業ガイダンス、ゼミクラス分け、履修指導 第2回 基礎的な学習方法1：図書館見学と情報検索講習 第3回 キャンパス講習会1：心と身体の健康（小村講師、手島主任看護師） 大講義室 第4回 基礎的な学習方法2：ノートの取り方 第5回 キャンパス講習会2：ネット被害・マルチ商法対策（島根県消費者センター） 大講義室 第6回 基礎的な学習方法3：ポスター発表に向けたグループ学習① 第7回 キャンパス講習会3：交通安全（松江警察署） 大講義室 第8回 基礎的な学習方法4：ポスター発表に向けたグループ学習② 第9回 キャンパス講習会4：防犯の心構えと護身術（松江警察署） 体育館アリーナ 第10回 基礎的な学習方法5：ポスター発表 第11回 キャンパス講習会5：ブラックバイト対策（島根労働局） 大講義室 第12回 基礎的な学習方法6：レポートの書き方① レポートを知る 第13回 キャンパス講習会6：人権セミナー（人権啓発推進センター） 大講義室 第14回 基礎的な学習方法7：レポートの書き方② 表紙と参考文献 第15回 基礎的な学習方法8：レポートの書き方③ レポートの構成
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	基礎的な学習方法の各回の課題（70%）、キャンパス講習会の各回の課題（30%）
自己学習に関する指針	各ゼミでの課題には、図書館などを利用して積極的に取り組んでください。
履修上の指導・留意点	質問があれば、各ゼミの担当者に質問してください。授業内容だけでなく、生活や進路のことについての相談も受けつけます。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化ゼミナールⅠ						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M8020020

授業の概要	文化に関わる研究テーマを見つける。少人数の演習形式で意見交換や討論を行いながら実施する。主な流れは以下の通りである。 1. 各自が興味を持っていることから問題を見つける。 2. 各自の問題に従って、資料収集・調査・分析を行う。 3. 研究した内容を中間レポートにまとめる。
授業の到達目標	・各自が興味を持っている卒業研究のテーマを探って、見つけること。 ・意見交換や討論の技術を身につけること。 ・調査、資料の収集・分析の方法を身につけること。
授業計画	(1) キッド・ダスティン — 異文化理解ゼミ 異文化を理解しようとする中で、自分の文化も理解できるようになります。異文化理解ゼミでは、さまざまな角度から異文化について議論しながら研究していきます。また、異文化という観点から観光について考えたり、日米文化を比較したりします。こういったことに興味のある学生は一緒に異文化理解について考え、研究しながら知識を深めていきましょう。 (2) 藤吉 知美 — アメリカ文学ゼミ アメリカ文学研究室では、代表的なアメリカ作家の作品を読みながら、テーマを見つけ、それについて考えをまとめます。文学作品は読んで楽しいのはもちろん、みなさんの探究心を刺激し、視野を広げてくれます。魅力を感じたところ、よくわからなかったところを掘り下げていくことで、自分の意見を持つ訓練にもなります。アメリカ文学の基礎を学びながら、自分でものを考え、表現する方法を身につけましょう。 (3) 山根 繁樹 — 近現代文学ゼミ 現代の日本語で書かれたものを対象として研究を行います。小説、詩、短歌、俳句、戯曲などの文学作品はもちろん、評論やエッセイなども対象として、作品研究や作家研究ができます。また、広告で使われるコピーのような、さまざまなメディアで発信されている言説を対象として、言葉の持つ力や、背景にある時代、社会、文化について研究していくことも可能です。 (4) 山村 仁朗 — 国語学ゼミ 日本語の研究を行います。音韻、語彙、文法など日本語に関することであればどのような問題にも対応します。また、日本古典文学の研究も行います。奈良、平安、鎌倉、室町、江戸の各時代の作品研究や作者の研究が可能です。加えて、日本語や文学作品を用いた日本文化の研究を行います。江戸時代以前を考察の中心とします。 (5) 渡部 周子 — 表象文化ゼミ 明治以降から現代までの日本の文化を、文字資料と視覚資料（絵画や映像等）の双方を対象として、研究することができます。子ども、女性をめぐる文化等を、ジェンダーの視点を軸として、考察していきます。また、ここで指す文化とは、ハイ・アート（高級芸術）だけでなく、ポップカルチャー（大衆文化）をも含めるものであり、幅広く捉えています。 (6) 加藤 暢恵 — 情報活用ゼミ 情報発信における情報技術の利活用に関する研究を行います。既存サービスの利活用やアプリデザインなど情報発信に関することに対応します。また、情報を発信する上で重要となるデータ分析に関する研究も行います。分析対象は限定せず、情報を分析・整理し発信することに重点をおいて研究を行います。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	テーマ設定 40% レポート（参考文献を含めて3000字）60%
自己学習に関する指針	各ゼミでの課題には、図書館などを利用して積極的に取り組んでください。

履修上の 指導・留意点	質問があれば、各ゼミの担当者に質問してください。授業内容だけでなく、生活や進路のことについての相談も受けつけます。
----------------	---

授業科目	総合文化ゼミナールⅡ						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	90	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M8020030

授業の概要	<p>短期大学二年間の学びの集大成として、卒業論文を作成することを目標とする。主な流れは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「総合文化ゼミナールⅠ」で設定したテーマに従って、卒業研究に取り組む。 2. 研究の途中経過をゼミで発表し、議論を行う。 3. 研究成果を卒業論文にまとめる。 4. 卒業論文について、卒業研究報告会で発表を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑応答の力を身につけること。 ・ 日本語による論理的な文章表現力を向上させること。 ・ 発表会に向けてプレゼンテーション力を向上させること。
授業計画	<p>(1 キッド・ダスティン — 異文化理解ゼミ) 異文化を理解しようとすることで、自分の文化も理解できるようになります。異文化理解ゼミでは、さまざまな角度から異文化について議論しながら研究していきます。また、異文化という観点から観光について考えたり、日米文化を比較したりします。こういったことに興味のある学生と一緒に異文化理解について考え、研究しながら知識を深めていきましょう。</p> <p>(2 藤吉 知美 — アメリカ文学ゼミ) アメリカ文学研究室では、代表的なアメリカ作家の作品を読みながら、テーマを見つけ、それについて考えをまとめます。文学作品は読んで楽しいのはもちろん、みなさんの探究心を刺激し、視野を広げてくれます。魅力を感じたところ、よくわからなかったところを掘り下げていくことで、自分の意見を持つ訓練にもなります。アメリカ文学の基礎を学びながら、自分でものを考え、表現する方法を身につけましょう。</p> <p>(3 山根 繁樹 — 近現代文学ゼミ) 現代の日本語で書かれたものを対象として研究を行います。小説、詩、短歌、俳句、戯曲などの文学作品はもちろん、評論やエッセイなども対象として、作品研究や作家研究ができます。また、広告で使われるコピーのような、さまざまなメディアで発信されている言説を対象として、言葉の持つ力や、背景にある時代、社会、文化について研究していくことも可能です。</p> <p>(4 山村 仁朗 — 国語学ゼミ) 現代の言葉または古典の言葉を対象として日本語の研究を行います。音韻、語彙、文法など日本語に関することであればどのような問題にも対応します。また、日本古典文学の研究も行います。奈良、平安、鎌倉、室町、江戸の各時代の作品研究や作者の研究が可能です。加えて、日本語や文学作品を用いた日本文化の研究を行います。江戸時代以前を考察の中心とします。</p> <p>(5 渡部 周子 — 表象文化ゼミ) 明治以降から現代までの日本の文化を、文字資料と視覚資料（絵画や映像等）の双方を対象として、研究することができます。子ども、女性をめぐる文化等を、ジェンダーの視点を軸として、考察していきます。また、ここで指す文化とは、ハイ・アート（高級芸術）だけでなく、ポップカルチャー（大衆文化）をも含めるものであり、幅広く捉えています。</p> <p>(6 加藤 暢恵 — 情報活用ゼミ) 情報発信における情報技術の利活用に関する研究を行います。既存サービスの利活用やアプリデザインなど情報発信に関することに対応します。また、情報を発信する上で重要となるデータ分析に関する研究も行います。分析対象は限定せず、情報を分析・整理し発信することに重点をおいて研究を行います。</p>
テキスト	
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	卒業論文 70% 発表 30%
自己学習に関する指針	各ゼミでの課題には、図書館などを利用して積極的に取り組んでください。

履修上の 指導・留意点	質問があれば、各ゼミの担当者に質問してください。授業内容だけではなく、生活や進路のことについての相談も受けつけます。
----------------	--

授業科目	日本語表現演習						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M8020040

授業の概要	エッセイやレポートなど、日本語の文章の書き方を学ぶ。最初に、エッセイを書くことを通して長い文章を書くことを体験する。続いて、各ゼミでテーマを決めて、レポート作成を体験する。清書したレポートについては教員が添削を行い、指導する。授業の後半では、2年次の「総合文化ゼミナールⅠ・Ⅱ」でのゼミ配属についての準備を始める。
授業の到達目標	(1) エッセイを書くことができる。 (2) レポートを書くことができる。 (3) ゼミについて考えることができる。
授業計画	第1回 エッセイを書く① テーマを決める、メモを作る 第2回 エッセイを書く② 下書きをする 第3回 エッセイを書く③ 推敲をする 第4回 エッセイを書く④ 清書をする 第5回 客員教授講演会① 第6回 レポートを書く① テーマを決める 第7回 レポートを書く② 下書きをする 第8回 レポートを書く③ 推敲をする 第9回 レポートを書く④ 添削返却 第10回 レポートを書く⑤ 清書をする 第11回 客員教授講演会② 第12回 ポジティブな言葉を考える 第13回 ゼミ選択① 研究室訪問 第14回 ゼミ選択② 卒論発表会への参加 第15回 ゼミ選択③ ゼミ配属決定、顔合わせ
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	阿部紘久『文章力の基本』(日本実業出版社) 長尾佳代子『大学1年生のための日本語技法』(ナカニシヤ出版)
評価方法	毎回の授業での取り組み(80%) エッセイ・レポートの提出(20%)
自己学習に関する指針	授業時の課題の残りや宿題は、なるべく授業があったその日のうちに済ませてください。
履修上の指導・留意点	分からないことや、文章が書けなくて困っている場合、早めに相談してください。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文化情報表現法						
担当教員	加藤 暢恵、大塚 茂、小倉 佳代子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020050

授業の概要	<p>本科目は、Adobe InDesign を用いて、DTP(Desk Top Publishing)に関する基礎的な知識と技術を得ることを目的としています。具体的には、リーフレット、冊子、取り扱い説明書などを編集・制作することを通して、ページレイアウトや文字デザイン、グラフや表の作成・利用方法、写真やイラストの処理・活用などの基礎的な力を身につけます。</p> <p>授業はすべてコンピュータを使った実技演習であり、各自が毎回作品を制作するという形で進めています。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DTPの基礎的な知識を理解する。 ・InDesignを用いて冊子を作成することができる。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス、InDesignの基本</p> <p>第2回 DTPの基本知識</p> <p>第3回 InDesignの基本操作(1)</p> <p>第4回 InDesignの基本操作(2)</p> <p>第5回 リーフレットの作成(1)</p> <p>第6回 リーフレットの作成(2)</p> <p>第7回 冊子の作成(1)</p> <p>第8回 冊子の作成(2)</p> <p>第9回 取り扱い説明書の作成(1)</p> <p>第10回 取り扱い説明書の作成(2)</p> <p>第11回 取り扱い説明書の作成(3)</p> <p>第12回 取り扱い説明書の作成(4)</p> <p>第13回 印刷データの作成、データ作り</p> <p>第14回 冊子作成演習(1)</p> <p>第15回 冊子作成演習(2)</p> <p>第16回 定期試験</p>
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	InDesign クリエイター養成講座、瀧野福子著、マイナビ InDesign 操作とデザインの教科書、ベクトルハウス著、技術評論社
評価方法	単位認定は、①授業の課題作品(70%)、②期末試験(30%)によって総合的に評価します。
自己学習に関する指針	各回の授業内容はその週のうちに復習し、次回の授業までに習得しておいてください。
履修上の指導・留意点	演習中心の授業のため、不明な点は早めに質問し、解決を図ること。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文化情報誌制作						
担当教員	山根 繁樹、小倉 佳代子、大塚 茂						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020060

授業の概要	<p>雑誌の編集・制作に関する基礎的な知識を身につけるとともに、コンピュータを使った地域情報誌や広報誌などのミニコミ誌制作(DTP=Desk Top Publishing)に必要なさまざまな力を養います。企画立案から取材、原稿の執筆、編集、校正、レイアウト・デザイン、印刷、製本に至る一連の作業を実践的に学ぶため、いくつかのチームをつくり、チームごとに40~50ページ程度の小冊子を制作します。記事の執筆は受講生全員が行います。</p>
授業の到達目標	<p>①テーマを決め、取材に行き、記事を書き、4ページ分の誌面を仕上げる。</p> <p>②規格や期限を守ることなど、共同作業に要求される資質を身につける。</p> <p>③InDesignを使って小冊子を作成する方法を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 雑誌ができるまで</p> <p>第2回 構想を練る・アイデア出し</p> <p>第3回 企画会議・資料調査</p> <p>第4回 取材先の選定・取材の心得</p> <p>第5回 取材</p> <p>第6回 取材</p> <p>第7回 取材</p> <p>第8回 表記の仕方、記事原稿執筆</p> <p>第9回 記事原稿執筆</p> <p>第10回 記事原稿執筆</p> <p>第11回 ページ割り、誌面デザインの方法</p> <p>第12回 記事の推敲、誌面レイアウト</p> <p>第13回 誌面レイアウト</p> <p>第14回 印刷・製本</p> <p>第15回 雑誌の味読合評会</p>
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	参考文献は必要に応じて紹介します。
評価方法	単位認定は、①小課題(企画書、取材ノート、記事原稿、誌面レイアウトなど)(40%)と、②最終課題(小冊子と記事)(60%)によって総合的に評価します。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校教諭)での勤務経験を生かして授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	民俗学						
担当教員	中野 洋平						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020070

授業の概要	現在の島根県では、人口減少問題をはじめとして様々な社会問題を抱えているため、「課題先進県」等と呼ばれています。私たちは日々の暮らしや地域をより良くしていくという課題がありますが、そのためには「暮らし」や「地域」がどのように構築され現在に至っているのかしっかりと理解する必要があります。そこでこの授業では、民俗学を通して、私たちの日常に対する理解を深めたいと思います。それぞれの授業回では、山陰地域の事例をもとに解説していきます。
授業の到達目標	(1) 民俗学の基本的な内容を理解することができる。 (2) 身の回りの民俗文化に積極的に関心を持つことができる。 (3) 関心を持った民俗文化を、適切に調べ理解することができる。
授業計画	第1回 民俗学の意義と目的、成り立ち 第2回 民俗学の方法 第3回 民俗社会論 (1) 地域の種別とコスモロジー 第4回 民俗社会論 (2) 地域を紐帯とした社会関係 第5回 民俗信仰論 (1) 神社と祭祀組織 第6回 民俗信仰論 (2) 寺院と死者供養 第7回 民俗信仰論 (3) さまざまな信仰 第8回 民俗芸能論 (1) 民俗芸能の種別 第9回 民俗芸能論 (2) 民俗芸能の成り立ち 第10回 民俗芸能論 (3) 民俗芸能の機能 第11回 年中行事論 第12回 人生儀礼論 第13回 口頭伝承論 第14回 社会の変化と民俗 第15回 民俗文化の活用と地域社会
テキスト	授業中に資料を配布します。
参考文献	福田アジオ他編『図説 日本民俗学』吉川弘文館 2009年
評価方法	期末レポート (100%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・授業では、講義だけでなく受講生同士でディスカッションをすることがあります。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本文化論Ⅰ (表象文化)						
担当教員	渡部 周子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020080

授業の概要	想像されたものや象徴的なものを虚構のイメージによって表現する「表象」という概念について、また、人々の心を動かしたり社会構造を維持したり変化させたりという「表象」の機能について理解することを目標とする。具体的には、文献資料と視覚資料(美術、写真、映画、漫画、アニメーション等)の双方に表現された、「女性」「子ども」「少女」などを分析の軸とし、これらを歴史的、社会的な観点から考察する。
授業の到達目標	1. 人文社会科学の研究上における「表象」という概念の位置づけを理解し、説明できる。 2. 具体的な事例について、表象の機能という視点で、分析的に説明できる。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 表象とはなにか 第3回 象徴とはなにか 第4回 規範像とはなにか 第5回 規範像1 国民主義と市民道徳 第6回 規範像2 ジェンダー規範 第7回 規範像3 理想的女性像の諸相 第8回 規範像4 新しい女性像としての一女学生、少女 第9回 規範像と逸脱者 第10回 「美」という表象 1 「美しい」とはどういうことなのか 第11回 「美」という表象 2 男性美と女性美について 第12回 「美」という表象 3 性別の境界と越境 第13回 「美」という表象 4 「かわいい」とはどういうことか 第14回 「美」という表象 5 未成熟の美学 第15回 総括 (進行順序や内容は変更となる場合がある)
テキスト	プリントを配布する他、講義に際して適宜案内する。
参考文献	青森県近代文学館編『有明淑の日記』青森県近代文学館、2000年。飯田祐子他『女性と闘争』青弓社、2019年。今井 久代他編『女学生とジェンダー』笠間書院、2019年。今福竜太『世界文学のフロンティア (4) ノスタルジア』岩波書店、1996年。小平 麻衣子『文芸雑誌「若草」』翰林書房、2002年。小平 麻衣子『夢見る教養』河出書房新社、2016年。児島薫『女性像が映す日本』ブリュッケ、2019年。ジョージ・L・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』佐藤卓己、佐藤八寿子訳、柏書房、1996年。太宰 治『女生徒』角川書店、2009年。中村圭子編『日本の「かわいい」図鑑』河出書房新社、2012年。永井咲季『宝塚歌劇』平凡社、2015年。野溝七生子『野溝七生子作品集』立風書房、1983年。堀越英美『不道徳お母さん講座』河出書房新社、2018年。村崎 修三『昭和懐古』熊本出版文化会館、2018年。若桑みどり『イメージの歴史』ちくま学芸文庫、2012年。渡部周子『<少女>像の誕生』新泉社、2007年。渡部周子『つくられた「少女」』日本評論社、2017年。
評価方法	平常点(発言、小課題等)(65%)、課題(35%)の総合評価となる予定である。
自己学習に関する指針	授業で挙げた参考文献、図像資料について、各自で読んだり、鑑賞する時間を設けること。
履修上の指導・留意点	受講生数や受講生の理解度等に応じて、授業の順序、進行、評価方法に変更がある場合がある。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本文化論Ⅱ (現代文化)						
担当教員	渡部 周子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020090

授業の概要	今日、日本のポップカルチャーが生み出す「少女」イメージは、国の内外から注目を浴びている。日本文化には成熟を肯定する価値観が不在だといわれており、こうした美意識を象徴する存在が「少女」だといえる。この現代の「少女」像の源流を、現代日本の視覚的表現を中心に辿り、未成熟であることの美学とは何なのかを考察する。
授業の到達目標	「少女」イメージを通して、「美」とは本質的なものではなく、時代や国が異なれば変化することを理解し、文化の持つ可変性を説明できるようになる。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「少女」とはなにか 第3回 ロマンティシズムという眼差し 第4回 現代の映像作品にみる近代的規範像の影響 第5回 現代の映像作品にみる近代的規範像の超克 第6回 「かわいい」とはどういうことか？ 第7回 「かわいい」の来歴 第8回 現代社会と「かわいい」 第9回 「怖い」と「かわいい」こと 第10回 性別を超えた美(1) 日本文化に見る性別越境 第11回 性別を超えた美(2) 歌舞伎と宝塚 第12回 永遠性の希求 ～人形 第13回 永遠性の希求 ～インモータルズ 第14回 未成熟の美学 第15回 統括 (進行順序や内容は変更となる場合がある)
テキスト	プリントを配布する他、適宜指示。
参考文献	朝日新聞出版編『宝塚歌劇華麗なる100年』朝日新聞出版、2014年。阿部さとみ、吉田弥生『歌舞伎と宝塚歌劇』開成出版、2014年。内田静枝『セーラー服と女学生』河出書房新社、2018年。菊地浩平『人形メディア学講義』河出書房新社、2018年。神野由紀『趣味とジェンダー』青弓社、2019年。中野純、大井夏代『少女まんがは吸血鬼でできている』方丈社、2018年。中本千晶『宝塚歌劇は「愛」をどう描いてきたか』東京堂出版、2015年。萩尾望都『ボーの一族 プレミアムエディション』(上、下巻)小学館、2019年。森伸之、内田静枝『ニッポン制服百年史』河出書房新社、2019年。吉田良『鏡花人形』河出書房新社、2018年。四方田犬彦『かわいい』論』ちくま新書、2006年。渡部周子『<少女>像の誕生 ―近代』新泉社、2007年。渡部周子『つくられた「少女」―「懲罰」としての病と死』日本評論社、2017年。
評価方法	平常点(小課題、コメント等)(65%)、課題(35%)の総合評価の予定である。
自己学習に関する指針	授業で挙げた参考文献、図像資料について、各自で読んだり、鑑賞する時間を設けること。
履修上の指導・留意点	受講生数や受講生の理解度等に応じて、授業の順序、進行、評価方法に変更がある場合がある。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米の社会と文化						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020100

授業の概要	本授業は、アメリカ合衆国の国自体や生活のあらゆる側面について学ぶことを目的とする。学生は新しい語彙を学び、そして学んだ事柄について議論もする。アメリカに対して持っている固定概念と現実を比較する機会もある。最終回には、学習の集大成として、アメリカの州について発表をする。
授業の到達目標	・アメリカに対する知識と理解を深める ・学習したことや関心を持ったことを英語で表現できるようになる ・日本との比較できるようになる
授業計画	第1回 Introduction and Overview 第2回 「アメリカ人」とは何か？ 第3回 アメリカ国内の地方や文化の違い 第4回 アメリカの地理 第5回 アメリカの歴史 第6回 アメリカの憲法 第7回 選挙制度 第8回 教育(高校まで) 第9回 教育(大学など) 第10回 アメリカの祝日 第11回 食事 第12回 宗教 第13回 エンターテインメント 第14回 法律 第15回 州の発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布
参考文献	必要に応じてプリントを配布
評価方法	グループワーク 30% 課題・宿題 30% 州の発表 40%
自己学習に関する指針	新聞・テレビでアメリカを取り上げる内容に注意するといい。授業の話し合いの時に役立つ。
履修上の指導・留意点	学習に積極的に取り組む姿勢をもつことは必要。思ったことや、内容に対する疑問を自分から発言しよう。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(ALT、中学校・高等学校教諭)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	アフリカの社会と文化						
担当教員	鹿野 一厚						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020110

授業の概要	「貧困」や「紛争」などの様々な困難に見舞われてきたアフリカは、21世紀にはいって大きく変貌しつつある。もちろん貧困も紛争もまったくなくなったわけではないし、エボラ出血熱など新たな困難も発生しているが、アフリカ全体を見れば5%を超える経済成長を達成し、携帯電話が爆発的に普及するなどの明るい兆しも見えている。 この授業では、最新のアフリカ研究の知見を紹介しながら、日本から遠く離れたアフリカとそこに住む人びとの経験から、私たちは何を学ぶことができるのかを探っていく。
授業の到達目標	①アフリカの自然・歴史・社会・文化に関する基礎的な知識を習得する。 ②アフリカの多様性、過去、困難、さらに希望と魅力について理解し、それらから何かを学ぶことができる。 ③アフリカから学んだ様々なことを自己の言葉で説明することができる。
授業計画	第1回 アフリカの自然と社会：国家と民族（講義） 第2回 アフリカの自然と社会：生態環境と生業（講義） 第3回 アフリカの自然と社会：「アフリカの牧畜社会」（講義と演習） 第4回 アフリカの過去に学ぶ：古王国から奴隷交易まで（講義） 第5回 アフリカの過去に学ぶ：植民地支配、そして独立（講義） 第6回 アフリカの過去に学ぶ：「アフリカの民族」（講義と演習） 第7回 アフリカの困難に学ぶ：経済の激動と貧困（講義） 第8回 アフリカの困難に学ぶ：政治的動乱と紛争（講義） 第9回 アフリカの困難に学ぶ：「アフリカの自立と援助」（講義と演習） 第10回 アフリカの希望を学ぶ：南アフリカのapartheid（講義） 第11回 アフリカの希望を学ぶ：南アフリカの真実和解委員会（講義） 第12回 アフリカの希望を学ぶ：「アフリカの希望」（講義と演習） 第13回 アフリカの魅力を探る：携帯革命（講義） 第14回 アフリカの魅力を探る：ポピュラーアート（講義） 第15回 アフリカの魅力を探る：「アフリカの魅力」（講義と演習） 筆記試験
テキスト	テキストはとくに使用しないが、毎回レジュメと資料を配付する。
参考文献	『アフリカ社会を学ぶ人のために』 松田素二編 2014年 世界思想社 『新書アフリカ史』 宮本正興・松田素二著 1997年 講談社現代新書 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	成績は、授業のミニレポート（40%）、期末試験（60%）によって総合的に評価する。 (達成目標①②③は期末試験によって評価するが、達成目標②③は授業のミニレポートによっても評価する。)
自己学習に関する指針	*授業には熱心に取り組むこと。そして、ミニレポートに自分の考えや疑問・感想などをできるだけたくさん書くこと。
履修上の指導・留意点	*授業中に取り上げる映画（DVD）は、図書館に置いておく。授業中にすべてを見せることはできないので、関心がある人は適宜残りを見ておくこと。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	東アジアの社会と文化Ⅰ						
担当教員	李 暁東						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1・2（各年開講）	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020120

授業の概要	この授業では、東アジア地域で日本にとって関係が最も深い国の一つである中国を取り上げる。中国と日本とは同じ漢字文化圏に属しており、また、長い交流の歴史をもっているため、両国の間に多くの共通性を持っている。しかし、もっぱら共通性に目を奪われると、相互間の違いを認識しにくくなり、それは相手に対する理解を妨げている。授業は日中間の異同に留意しつつ中国の社会・文化、及びその多面性と多様性について説明していきたい。
授業の到達目標	中国という「引越しの出来ない隣人」に関心をもつこと 中国社会と文化の多面性と多様性を理解し自分の言葉で説明できること。 中国社会と中国文化について、自分の考えをもつこと。
授業計画	第1回 総論 第2回 家・郷・国の観念 第3回 華夷、天下 第4回 儒教、朱子学 第5回 社会主義時代 第6回 「改革・開放」の時代（以上、「Ⅰ. 中国の人の世界認識と価値意識」） 第7回 「西欧の衝撃」 第8回 辛亥革命 第9回 中華人民共和国の成立 第10回 八〇年代以降（以上、「Ⅱ. 中国の歴史」） 第11回 生活面の変化から価値観の変化へ 第12回 生活環境の変化——単位から社区 第13回 格差問題、三農問題 第14回 腐敗の問題 第15回 経済改革と政治改革の間（以上、「Ⅲ. 中国社会の発展と課題」） 定期試験
テキスト	特になし。担当教員がレジュメ、資料、映像を事前に用意する。
参考文献	国分良成『中国政治から見た日中関係』（岩波現代全書） 天児慧『中華人民共和国史 新版』（岩波新書）
評価方法	受講する姿勢（質疑・応答の積極性、感想文の提出、出席率）40%、期末テスト60%
自己学習に関する指針	事前に配られたレジュメや資料を予習しておくこと。特に関心を持つところは自分で調べておくこと。
履修上の指導・留意点	「東アジアの社会と文化Ⅱ」と合わせて受講することを薦める。 講義内容をただ知識として暗記するのではなく、中国に関する知識を身につけた上で、中国をどのように捉えるべきか、また、中国とどのように付き合うのかを考える。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	東アジアの社会と文化Ⅱ						
担当教員	福原 裕二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1・2(各年開講)	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020130

授業の概要	この授業では、東アジア地域(北東アジアと東南アジアを包含する広大な地域)のうち、とくに朝鮮半島地域を取り上げ、その社会と文化を「理解」するために必要な知識を講義する。その際、地域研究の手法(その地域に関わる可能な限り多くの分野を取り上げ、それらを包括的に関連づけて学び、地域を地域全体として理解する)を用いること、他国理解(自国の相対化と自我認識の再検討)であることに留意しながら授業を進めていく。
授業の到達目標	●自国を相対化しつつ、思い込みや偏見、排他的な認識なしに、朝鮮半島地域の社会や文化を理解した上で、その地域の出来事に対して初歩的な所見を述べることができる。 ●自らの興味・関心にそくして、朝鮮半島地域の社会や文化の一現象を取り上げ、レポートにまとめることができる。
授業計画	第1回 イントロダクション(「地域研究/理解すること」とは何か) 第2回 朝鮮半島の常識?! Part 1(あなたはどこくらい朝鮮半島を知っているか) 第3回 朝鮮半島の常識?! Part 2(朝鮮半島の現在) 第4回 朝鮮半島社会の歴史 Part 1(文化の基層) 第5回 朝鮮半島社会の歴史 Part 2(前近代東アジア国際関係システムと中世の“韓流”ブーム) 第6回 朝鮮半島の社会関係 Part 1(伝統社会) 第7回 朝鮮半島の社会関係 Part 2(現代社会①・家族と女性) 第8回 朝鮮半島の社会関係 Part 3(現代社会②・世代間亀裂) 第9回 朝鮮半島の宗教文化(儒教とキリスト教) 第10回 朝鮮半島の政治文化 Part 1(権力観と地域主義・大韓民国) 第11回 朝鮮半島の政治文化 Part 2(首領制と主体・朝鮮民主主義人民共和国) 第12回 朝鮮半島の軍事文化(分断国家の現実) 第13回 朝鮮半島の経済文化 Part 1(韓国経済と財閥) 第14回 朝鮮半島の経済文化 Part 2(北朝鮮経済と人々の暮らし) 第15回 朝鮮半島の社会・文化に引きあおう(歴史認識問題) 定期試験
テキスト	とくに使用しない。この講義では、担当教員が作成したレジュメ(パワーポイント・データ/ハンドアウト)をテキストとして使用する。
参考文献	ここでは、朝鮮半島の社会と文化を理解するのに役立つ初歩的な文献を刊行年代順に挙げておきます。東アジアを包含する地域の社会と文化、また朝鮮半島のより各論的な内容に関わる文献については、担当教員に問い合わせてもらえれば紹介します。古田博司『朝鮮民族を読み解く：北と南に共通するもの』(ちくま新書、1995年)、イザベラ・バード、時岡敬子訳『朝鮮紀行：英国婦人の見た李朝末期』(講談社学術文庫、1998年)、鄭大聲『朝鮮半島の食と酒：儒教文化が育んだ民族の伝統』(中公新書、1998年)、国立国語院編、三橋広夫・趙完済訳『韓国伝統文化事典(カラー日本語版)』(教育出版、2006年)、石坂浩一編著『北朝鮮を知るための51章』(明石書店、2006年)、伊藤亜人監訳、川上新二編訳『韓国文化シンボル事典』(平凡社、2006年)、申登植、金順姫訳『韓国史入門』(東方出版、2009年)、金榮勲、金順姫訳『韓国人の作法』(集英社新書、2010年)、小倉紀蔵『心で知る、韓国』(岩波現代文庫、2012年)、小倉紀蔵『現代韓国を学ぶ』(有斐閣選書、2012年)、大西裕『先進国・韓国の憂鬱：少子高齢化、経済格差、グローバル化』(中公新書、2014年)、伊藤亜人ほか監修『[新版]韓国朝鮮を知る事典』(平凡社、2014年)、福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』(国際書院、2015年)、崔俊植著、崔京国・荒井淑子訳『やさしい韓国文化の話52』(かんよう出版、2016年)、上原善広『幻の韓国被差別民「白丁」を探して』(河出書房新社、2019年)、八田靖史『韓国行ったらこれ食べよう!』(誠文堂新光社、2019年)、磯崎敦仁『北朝鮮と観光』(毎日新聞出版、2019年)。
評価方法	中間レポート…50%、期末テスト…50%
自己学習に関する指針	あらかじめ、次回のpptハンドアウトを配付するので、その内容に目を通し、分からない語句や人名・地名があれば、調べておくこと。また、講義した内容で不明なことがあれば、質問するか参考書等で復習すること。
履修上の指導・留意点	春学期に開講される「東アジアの社会と文化Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。講義内では学問(学び)に関わることであることを意識して、なるべく聴講者に問いかけを行うよう努めますので、予習・復習のみならず、東アジア(とくに朝鮮半島と日本)をめぐる出来事にアンテナを立てておくようにして下さい。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学と文化Ⅰ(日本近代文学)						
担当教員	山根 繁樹						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020140

授業の概要	近代小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力を養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。それぞれの読解をもとに発表やディスカッションを行うことで、文学作品について自らの考えを的確に表現したり、他者の伝えようとしている内容を正確に把握したりする力を培う。また、日本近代文学の小説を中心とした歴史を概説し、個々の作品が文学史上に占める位置を明らかにする。それらによって、文学に対する学生の主体的なかかわりを醸成する。
授業の到達目標	(1) 小説を分析的に読解することができる。 (2) 小説についての自分の見解を述べるができる。 (3) 小説についての自分の見解を説得的な文章にすることができる。 (4) 小説を中心とした近代文学史の流れを説明できる。
授業計画	第1回 概説1 近代文学の分析方法 第2回 概説2 小説の構造と物語の関わり 第3回 概説3 現代社会と物語の強度 第4回 発表1 発表の仕方/文学史1_明治期の言語状況 第5回 発表2 荒畑寒村「父親」/文学史2_言文一致の誕生 第6回 発表3 森鷗外「寒山拾得」/文学史3_自然主義の発生 第7回 発表4 佐藤春夫「指紋」/文学史4_夏目漱石 第8回 発表5 谷崎潤一郎「小さな王国」/文学史5_森鷗外 第9回 発表6 宮地嘉六「ある職工の手記」/文学史6_白樺派 第10回 発表7 芥川龍之介「妙な話」/文学史7_耽美派 第11回 発表8 内田百閒「件」/文学史8_大正期の文学 第12回 発表9 長谷川如是閑「象やの桑さん」/文学史9_昭和期(戦前)の文学 第13回 発表10 宇野浩二「夢見る部屋」/文学史10_戦後の既成作家 第14回 発表11 稲垣足穂「黄漢奇聞」/文学史11_戦後文学 第15回 発表12 江戸川乱歩「二銭銅貨」/文学史12_戦後生まれの作家 定期試験
テキスト	池内 紀・松田 哲夫・川本 三郎編『日本文学100年の名作第1巻 1914-1923 夢見る部屋』(新潮文庫)
参考文献	奥野健男『日本文学史 近代から現代へ』(中公新書) 安藤宏『日本近代小説史』(中公選書)
評価方法	試験(30%)発表資料と発表内容(60%)討議(10%)
自己学習に関する指針	授業で発表される作品については、必ず事前に読んでください。
履修上の指導・留意点	意見の違いは重要です。積極的にディスカッションに参加してください。質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mailで対応します。なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校教諭)での勤務経験を生かして授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学と文化Ⅱ (日本近代文学)						
担当教員	山根 繁樹						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020150

授業の概要	近代小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力を養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。それぞれの読解をもとに発表やディスカッションを行うことで、文学作品について自らの考えを的確に表現したり、他者の伝えようとしている内容を正確に把握したりする力を培う。また、長編小説を講読することにより、物語がいかに小説を駆動し、小説がいかに物語から力を得ているか、具体的に講義する。
授業の到達目標	(1) 小説を分析的に読解することができる。 (2) 小説についての自分の見解を述べるができる。 (3) 小説についての自分の見解を説得的な文章にすることができる。 (4) 長編小説の物語を把握し、物語と小説の関わりを説明することができる。
授業計画	第1回 概説1 近代小説の分析方法 第2回 概説2 「言語論的轉回」と物語分析 第3回 概説3 現代思想と文学理論 第4回 発表1 発表の仕方ガイダンス 第5回 発表2 織田作之助「木の都」/発表3 豊島与志雄「沼のほとり」 第6回 発表4 坂口安吾「白痴」/発表5 太宰治「トカトントン」 第7回 発表6 永井荷風「羊羹」/長編1 『マシマス・ギリの失脚』第1章 第8回 発表7 獅子文六「塩百姓」/長編2 『マシマス・ギリの失脚』第2章 第9回 発表8 島尾敏雄「島の果て」/長編3 『マシマス・ギリの失脚』第3章 第10回 発表9 大岡昇平「食慾について」/長編4 『マシマス・ギリの失脚』第4章 第11回 発表10 永井龍男「朝霧」/長編5 『マシマス・ギリの失脚』第5章 第12回 発表11 井伏鱒二「遙拝隊長」/長編6 『マシマス・ギリの失脚』第6章 第13回 発表12 松本清張「くるま宿」/長編7 『マシマス・ギリの失脚』第7章 第14回 発表13 小山清「落穂拾い」/長編8 『マシマス・ギリの失脚』第8章 第15回 長編9 『マシマス・ギリの失脚』第9章とまとめ 定期試験
テキスト	池内 紀・松田 哲夫・川本 三郎編『日本文学100年の名作第4巻 1944-1953 木の都』(新潮文庫) 池澤夏樹『マシマス・ギリの失脚』(新潮文庫)
参考文献	前田愛『文学テキスト入門』(ちくま学芸文庫)
評価方法	試験(30%) 発表資料と発表内容(60%) 討議(10%)
自己学習に関する指針	授業で発表される作品については、必ず事前に読んでください。長編小説は、事前にどんでん読み進めてください。
履修上の指導・留意点	意見の違いは重要です。積極的にディスカッションに参加してください。 質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校教諭)での勤務経験を生かして授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学と文化Ⅲ (日本古典文学)						
担当教員	山村 桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020160

授業の概要	日本の文学はどのようにはじまり、展開したのか。各時代の歴史・社会の中で生まれた文学が、時代を超えて人々の生き方を伝える普遍的価値をもつことがある。それを「古典」と呼ぶ。本授業では、古代から近世に至るまでの歴史背景をふまえた上で、代表的な古典文学—物語と和歌を中心に—を取り挙げる。各文学作品の基礎的知識とその読解の方法を学ぶことを目的とする。また、日本文学と共に育まれた日本の文化にも視野を広げたい。
授業の到達目標	(1) 古典文学の基礎的な知識を習得する。 (2) 古典文学の基礎的な知識をふまえた上で、代表的な古典文学を読解できるようになる。 (3) 古典文学の展開を説明できるようになる。 (4) 日本文学と共に育まれた日本文化について説明できるようになる。
授業計画	第1回 上代文学の時代背景—大和・奈良時代 第2回 上代の文学(歌):万葉集 第3回 上代の文学(神話):古事記 第4回 中古文学の時代背景—平安時代 第5回 中古の文学(作り物語):竹取物語・落窪物語 第6回 中古の文学(長編物語):源氏物語 第7回 中古の文学(日記):蜻蛉日記・紫式部日記 第8回 中古の文学(歴史物語):栄花物語・大鏡 第9回 中世文学の時代背景—鎌倉・室町時代 第10回 中世の文学(説話1):今昔物語集・宇治拾遺物語 第11回 中世の文学(説話2):御伽草子 第12回 和歌文学1:八代集・百人一首 第13回 和歌文学2:歌合・歌論・連歌 第14回 近世の文学(読本):雨月物語 第15回 中近世の芸能:能・浄瑠璃・歌舞伎 定期試験
テキスト	秋山虔・三好行雄『原色シグマ新日本文学史増補版』文英堂
参考文献	渡部泰明他『和歌のルール』笠間書院 『シリーズ日本古代史①~⑥』岩波新書 その他、授業中に指示
評価方法	定期試験(80%)、授業中のワークシート(20%)
自己学習に関する指針	授業中に配布の参考文献リストを参照し、古典文学に関わる文献を積極的に読んでください。
履修上の指導・留意点	古文には現代語訳を付しますので、古典文法が苦手な人でも受講可能です。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験に基づき、必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学と文化Ⅳ(英米文学A)						
担当教員	藤吉 知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020170

授業の概要	19世紀から20世紀初頭の代表的なアメリカ文学作品を取り上げます。作品を理解するには、作家の経歴や、作品が生まれた歴史的、文化的背景を知ることが重要です。授業では、作品全体を取り上げるのではなく、エッセンスとなる部分を読みますが、興味のある作家や作品を見つけたら、翻訳でもいいので、作品全体を読んでください。また、読んだ内容に関して、自分なりの意見を持つことで、文学作品を読む際に何に注目すればいいのかかわかり、読解の幅が広がります。この授業を通して、アメリカ作家とその作品に親しんでください。
授業の到達目標	1. アメリカ文学の代表的作家を知る。 2. 文学作品の読み方を学ぶ。 3. 内容に関して、自分なりの意見を持つ。
授業計画	第1回 授業の進め方、成績評価の説明、導入 第2回 Chapter 1. Louisa May Alcott, Little Women 第3回 Chapter 2. Sherwood Anderson, "Paper Pills" 第4回 Chapter 3. Henry James, Daisy Miller 第5回 Chapter 4. Charlotte Gilman, "The Yellow Wallpaper" 第6回 Chapter 5. O. Henry, "After Twenty Years" (I) 第7回 Chapter 6. O. Henry, "After Twenty Years" (II) 第8回 Chapter 7. Kate Chopin, The Awakening 第9回 Chapter 8. F. Scott Fitzgerald, The Great Gatsby 第10回 Chapter 9. F. Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (II) 第11回 Chapter 10. Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn (I) 第12回 Chapter 11. Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn (II) 第13回 Chapter 12. Edgar Allan Poe, "The Black Cat" 第14回 Chapter 13. Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter 第15回 Chapter 14. Ralph Waldo Emerson, Nature
テキスト	Let's Learn English from American Literature 「アメリカ文学から英語を学ぼう」(英宝社)
参考文献	授業で適宜配布する。
評価方法	試験80% 授業での発表・課題20%
自己学習に関する指針	辞書を活用しながら予習を行うこと。
履修上の指導・留意点	授業への積極的な参加を評価します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、高等教育機関(高等専門学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文学と文化Ⅴ(英米文学B)						
担当教員	藤吉 知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020180

授業の概要	20世紀における、代表的なアメリカ文学作品を取り上げます。授業では、エッセンスとなる部分を読み、問題を解くことで、作品理解に努めます。また、作家の経歴や、作品が生まれた歴史的、文化的背景についても知識を深めます。作品を読んだ後は、内容についての意見を発表してください。文学作品の解釈は、明確にYesとかNoで言い切れないものが多くあります。そうであるからこそ、自分の意見を支える理由や根拠を述べるのが大切です。授業の中で、興味のある作家や作品を見つけたら、翻訳でもいいので、作品全体を読み、アメリカ文学への興味を広げてください。
授業の到達目標	1. 作品の歴史的、文化的背景を知る。 2. 内容に関する問題を解いて、作品理解を深める。 3. 内容について、自分の意見を述べるができる。
授業計画	第1回 授業の進め方、成績評価の説明、導入 第2回 Chapter 1. William Faulkner, "A Rose for Emily" (I) 第3回 Chapter 2. William Faulkner, "A Rose for Emily" (II) 第4回 Chapter 3. Ernest Hemingway, "The Short Happy Life of Francis Macomber" 第5回 Chapter 4. Ernest Hemingway, The Old Man and the Sea 第6回 Chapter 5. John Steinbeck, "Of Mice and Men" (I) 第7回 Chapter 6. John Steinbeck, "Of Mice and Men" (II) 第8回 Chapter 7. Saul Bellow, "Seize the Day" (I) 第9回 Chapter 8. Saul Bellow, "Seize the Day" (II) 第10回 Chapter 9. Hisaye Yamamoto, "Seventeen Syllables" (I) 第11回 Chapter 10. Hisaye Yamamoto, "Seventeen Syllables" (II) 第12回 Chapter 11. Leslie Marmon Silko, "Ceremony" (I) 第13回 Chapter 12. Leslie Marmon Silko, "Ceremony" (II) 第14回 復習 難しかった作品の再読 第15回 まとめ 全体の振り返り
テキスト	Let's Learn English from American Literature II 「アメリカ文学から英語を学ぼうII」(英宝社)
参考文献	授業で適宜配布する。
評価方法	試験80% 授業での発表・課題20%
自己学習に関する指針	辞書を活用しながら予習を行うこと。
履修上の指導・留意点	授業への積極的な参加を評価します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、高等教育機関(高等専門学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本文化特論Ⅰ(妖怪学)						
担当教員	小泉 凡						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020190

授業の概要	異界は洋の東西をとわず存在する。人間の想像力が生み出した異界に属する超自然的なものの存在(妖怪)に多角的にアプローチすることから、人間と異界との交渉の歴史、妖怪伝承の文化的背景を考察することを目標とする。授業では、いくつかの具体的な妖怪伝承を取り上げ、その文化背景への理解を深めるとともに、ヨーロッパの妖精信仰との比較や現代社会における文化資源、観光資源としての妖怪の意味についても考えていく。
授業の到達目標	1. 日本の民俗的世界にみえる妖怪とその文化背景としての民俗信仰について説明することができる。 2. 日本の妖怪と西洋の妖精の共通点、相違点について説明することができる。 3. 現地研修を通じ、観光・文化資源としての妖怪について、意義を述べるることができる。
授業計画	(講義28時間、演習2時間) 第1回 イントロダクション：妖怪の概念と種類、妖怪研究の歴史 第2回 日本人における妖怪観の変遷 第3回 一つ目小僧と製鉄の神 第4回 ダイダラ坊と巨人伝説 第5回 河童と水神①～河童はなぜ馬と胡瓜と相撲が好きか、なぜ頭に皿があるのか～ 第6回 河童と水神②～熊本県球磨地方の川ん太郎と山ん太郎から考える～ 第7回 雪女伝承と再話怪談としての「雪女」～書承と口承を行き来する妖怪物語～ 第8回 現象妖怪としての再生物語～輪廻転生の死生観を考える～ 第9回 水木しげると小泉八雲①～幼児体験をめぐる共通性～ 第10回 水木しげると小泉八雲②～アニミズムに根差す妖怪観～ 第11回 ザシキワラシとバンシー～日本とアイルランドの家につく精霊たち～ 第12回 ケルト世界の妖精伝承の特色～ドルイド信仰をめぐる～ 第13-14回 観光・文化資源としての妖怪たち ～日本妖怪博物館(広島県三次市)での現地研修～ 第15回 まとめ：日本における神と妖怪
テキスト	授業で、プリントを適宜配布する。
参考文献	小松和彦他編『47 都道府県・妖怪伝承百科』(丸善出版、2017年)、小松和彦『妖怪文化入門』(角川ソフィア文庫、2012年)、ウェブサイト「怪異妖怪伝承データベース」「怪異妖怪画像データベース」(国際日本文化研究センター)
評価方法	平常点(授業態度・コメントカード)(30%)、現地研修への参加とレポート(30%)、期末課題(40%)
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	現地研修にともない、日本妖怪博物館の入館料および交通費の一部負担金が必要となる場合もある。なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小泉八雲記念館の学芸員としての業務経験を生かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本文化特論Ⅱ(しまねの祭りと芸能)						
担当教員	品川 知彦						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020200

授業の概要	島根には特色ある祭礼行事が数多く伝承されている。その行事を見る上で必要な基本的な知識を習得するとともに、行事の内容・意味・歴史について解説する。また、行事の担い手不足が生じている中で、それでもなお、行事を存続させようとしているのか、その心意についても考察を加える。
授業の到達目標	(1)「神集い信仰」・「荒神信仰」・「歳徳神信仰」・「神楽」など島根に特徴的な祭礼行事の内容を把握する。 (2) 行事を把握した上で、その意味などを県外の人などにも伝えられることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス(授業の目的と内容)・御田植え神事 第2回 祭礼行事を見る上での基本的な知識 柳田国男の民俗学1 第3回 柳田国男の民俗学2 第4回 柳田以後の民俗学の展開 第5回 頭屋制・祭礼と神話との関係 青柴垣神事 第6回 諸手船神事 第7回 民俗学と歴史学 出雲の神在祭1 第8回 出雲の神在祭2 第9回 縁結び信仰の成立 第10回 荒神信仰1 第11回 荒神信仰2 第12回 出雲と相撲・隠岐古典相撲 第13回 島根の神楽1 第14回 島根の神楽2 第15回 祭礼の継承とオカゲ意識
テキスト	・適宜プリントを配布
参考文献	1 石塚尊俊『山陰の祭祀伝承』、山陰民俗学会、平成2年 2 『柳田国男全集』28、ちくま文庫、平成2年 (『柳田国男全集』8、筑摩書房、平成10年)
評価方法	簡単なレポート、試験などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・参考文献を熟読することをお薦めする。 ・授業で紹介する行事などを実際に見に行くことが望ましい。
履修上の指導・留意点	授業前に、配布したプリントを一読しておくこと。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米文学特論 (へるん)						
担当教員	松浦 雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020210

授業の概要	ラフィカディオ・ハーン(帰化名小泉八雲、松江では親しみをこめて「へるん」さんと呼ばれている)の紀行文を読むと、英語のさまざまな語り口を楽しむことができる。そこには幹逸な情景描写、華麗な詩的高揚、哀愁にみちた素朴な語り口の伝承物語などが盛り込まれ、自在な文体で読者を楽しませてくれる。本講義では、『日本の面影』(Glimpses of Unfamiliar Japan)を中心にハーン作品の和訳を試み、その文体を味わいながら英語力を高め、ハーンの使用する独特の語彙や書きぶりについて、またハーンにとっての松江、ハーンにとっての日本とは何かについて、考察を深めていきたい。授業は、学生諸子に音読・訳読を試みていただき、必要に応じて担当教員が補足するという形態で進めていく。
授業の到達目標	本授業の目標は次の二つである。 1. 英語の読解力を向上させる。 2. ハーン的な英語表現について考察しながら作品鑑賞力を高める。
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 ハーンの特徴的な語彙と文体 第3回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第18節抜粋前段部分 第4回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第18節抜粋中段部分 第5回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第18節抜粋後段部分 第6回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第13節抜粋前半 第7回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第13節抜粋後半 第8回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第12節 第9回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第5節抜粋前半 第10回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第5節抜粋後半 第11回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第1節抜粋前半 第12回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第1節抜粋後半 第13回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第2節抜粋前半 第14回 『知られぬ日本の面影』から「神々の国の首都」第2節抜粋後半 第15回 まとめ 期末試験
テキスト	プリント教材を用いる。
参考文献	ラフカディオ・ハーン著 池田雅之訳『新編 日本の面影』角川学芸出版 税込842円※ 小泉 時・小泉 凡共編『文学アルバム小泉八雲増補新版』恒文社 本体2500円※。 ※価格は参考価格である。
評価方法	成績は、和訳の担当、毎授業のコメントシート、期末テストの成績により合計100点満点で評価する。
自己学習に関する指針	辞書を丹念に引くこと。音読すること。
履修上の指導・留意点	英語の読解力と作品鑑賞力を高めることに比重を置いている。編入学を希望する受講者も想定している。開講時期は、2月末から3月初めの予定である。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本の言語と文化 I						
担当教員	山村 仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020220

授業の概要	日本の文化が育んできた日本語とは、言語としてどのような特徴を持つのか。この授業では「卵」と「玉子」の表記、「竹刀」をシナイと読む理由など、身の回りの日本語の中から具体的な問題を取りあげ、それらの解決を試みる。そのことを通して、日本語への理解を深め、言葉について研究するとはどういうことかを知ることが目的とする。併せて、言葉に限らず身の回りには多くの問題が存在していることを知り、その多くの問題を見つけたす力も養成したい。
授業の到達目標	(1) 日本語について関心をもつ。 (2) 日本語の特徴を指摘することができる。 (3) 日本語の問題を見つけることができる。
授業計画	第1回 「卵」と「玉子」はどう違うか① 現代(表記・意味) 第2回 「卵」と「玉子」はどう違うか② 上代・中古(表記・意味) 第3回 「卵」と「玉子」はどう違うか③ 中世・近世(表記・意味) 第4回 「卵」と「玉子」はどう違うか④ 近代(表記・意味) 第5回 ひらがなとカタカナはいづれからあるのか(文字) 第6回 五十音図には何音あるか、「いろはにほへと…」を最後まで言えるか(文字) 第7回 「竹刀」はなぜ「シナイ」と読むのか(漢字) 第8回 「汽車がホームにつく」と「電気がつく」の「つく」は同じか違うか(意味) 第9回 「犬」の「犬」は語か文か(文法) 第10回 「青い、青、青くなる…」「青い、赤い、白い…」正しい単語の分け方はあるか(文法) 第11回 江戸時代には単語をどのように分けたか(文法) 第12回 「これはペンです／これはペンではありません／これはペンですか」はどう違うか(文法) 第13回 「せっかく勉強したのに…」の「せっかく」とはどういう意味か(文法) 第14回 「今、雷が鳴った」は過去か現在か(文法) 第15回 まとめ—日本語を研究するとはどういうことか
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	金田一春彦『日本語の特質』(日本放送出版協会) その他は授業時に適宜、紹介する。
評価方法	定期試験(80%)、毎回のコメントカードの内容(20%)
自己学習に関する指針	身の回りの言葉に関心を持ち、問題を見つける姿勢を持ってください。
履修上の指導・留意点	授業は板書を中心に行います。ノートかルーズリーフを準備してください。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本の言語と文化Ⅱ						
担当教員	山村 仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020230

授業の概要	この授業では、天草版『伊曾保物語』を国語学的に講読する。初めの数回は教員が講義を行う。以降は担当者を決め、受講生に順次発表してもらう。発表に際して、翻字、語句調査、現代語訳、日本語の問題点についての調査・考察を課す。それらの作業を通して、当時の人々がどのような日本語をもっていたのかを理解することを目標とする。併せて、自分で問題を設定し、適切な用例（データ）を収集する力を養成したい。 天草版『伊曾保物語』とは室町時代に伝来したイソップ物語である。
授業の到達目標	(1) 天草版『伊曾保物語』を原文で読むことができる。 (2) 日本語の用例収集ができる。 (3) 収集した用例を用いて発表することができる。
授業計画	第1回 発表の仕方、授業の進め方 第2回 担当箇所決定、天草版『伊曾保物語』の読み方 第3回 中世文学概説 第4回 中世日本語とキリシタン資料 第5回 室町時代の日本語資料 第6回 受講生による発表(1)「鶏と下女の事」 第7回 受講生による発表(2)「二人の知音の事」 第8回 受講生による発表(3)「棕櫚と竹の事」 第9回 受講生による発表(4)「大海と野人の事」 第10回 受講生による発表(5)「炭焼と洗濯人の事」 第11回 受講生による発表(6)「病者と薬師の事」 第12回 受講生による発表(7)「陣頭の貝吹きの事」 第13回 受講生による発表(8)「母と子の事」 第14回 受講生による発表(9)「鶏と犬の事」 第15回 授業のまとめ—中世日本語とはどのような言語であったか
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	土井忠生他『邦訳日葡辞書』(岩波書店) 大塚光信『キリシタン版エソポのハラス私注』(臨川書店)
評価方法	発表(80%)、発表への質問・コメントカード(20%)
自己学習に関する指針	自分の発表は入念に準備してください。そうでない場合も該当箇所を読んだうえで参加し、積極的に質問してください。
履修上の指導・留意点	発表についての質問は担当日の1週間以上前であれば受けつけます。メールにて事前予約してください。 y-yamamura@u-shimane.ac.jp

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	日本の言語と文化Ⅲ						
担当教員	山村 仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020240

授業の概要	この授業では、平安時代の文学作品『竹取物語』を購読する。予習として、受講生には毎回、課題ページまでの翻字を求める。授業では、翻字の確認をしながら、内容の読解を行う。また、平安時代の文学や日本語についての解説を行う。それらを通して、テキストの中でどのような日本語が用いられているかを理解することが目標である。
授業の到達目標	(1) 変体仮名を読むことができる。 (2) 『竹取物語』の内容を説明することができる。 (3) テキストの中の日本語の特徴を説明することができる。
授業計画	第1回 授業の進め方 変体仮名の読み方 第2回 「かぐや姫の発見と成長」 第3回 「貴公子たちの求婚」 第4回 「石作の皇子と仏の御石の鉢」(1) 第5回 「石作の皇子と仏の御石の鉢」(2) 第6回 「くらもちの皇子と蓬葉の玉の枝」(1) 第7回 「くらもちの皇子と蓬葉の玉の枝」(2) 第8回 「阿部の右大臣と火鼠の皮衣」(1) 第9回 「阿部の右大臣と火鼠の皮衣」(2) 第10回 「大伴の大納言と竜の頭の玉」(1) 第11回 「大伴の大納言と竜の頭の玉」(2) 第12回 「石上の中納言と燕の子安貝」(1) 第13回 「石上の中納言と燕の子安貝」(2) 第14回 「帝の求婚」 第15回 「かぐや姫の昇天」 まとめ
テキスト	・『字典かな』(出典明記・改定版 笠間書院) ・本文についてはプリントを配布する。
参考文献	・『角川古語大辞典』1～5(角川書店) ・『日本国語大辞典』1～13(小学館) ・『日本古典文学大辞典』1～5(岩波書店)
評価方法	発表(70%)、発表に対する質問・コメントカード(10%)、定期試験(20%)、
自己学習に関する指針	自分の発表は入念に準備してください。そうでない場合も該当箇所を読んだ上で授業に参加し、積極的に質問してください。
履修上の指導・留意点	毎回、予習課題がありますが、頑張り付けてきてください。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米の言語と文化Ⅰ						
担当教員	藤吉 知美・中井 誠一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020250

授業の概要	この授業では、いわゆる語学としての英語学習のみではなく、英語学習を通して言葉と文化の関係にも思いを致し、言葉と文化の間にある相互的な影響や作用について考えながら、基礎的な英語の四技能を総合的に身につける。初回授業で1年生共通のプレースメントテストを行い、2回目の授業からA、Bの2クラスに分けて各担当で授業を実施する。
授業の到達目標	1. 英語の基本的あるいは日常的な語彙力がある。 2. 基本的あるいは日常的な語彙を使用した基礎的な英語表現を「聞く」「読む」作業をととして理解している。 3. 基本的あるいは日常的な語彙を使用して、「話す」あるいは「書く」ことを通して基礎的な英語表現ができる。 4. 上記2、3の技能を可能にする統語的法則（文法）についての基礎理解がある。
授業計画	第1回 1年生共通プレースメントテスト 第2回 イントロダクション（A、Bクラス別） 第3～15回 第2回授業でA、B各担当より示されたクラス別シラバスによって進めます。 期末試験
テキスト	A、B各クラスの担当によって指示されたテキスト、あるいはプリント教材を用います。4月ガイダンス時に指示する予定ですが、テキストはプレースメントテストの結果が出て受講クラスが決定されたのち、指示に応じて必ず購入してください。購入価格はおよそ2000円前後の予定です（価格が変更される場合もあります）。
参考文献	担当者が適宜紹介します。
評価方法	毎回の演習、課題の提出、定期試験の得点を合計100点満点で評価します。詳しい説明は2回目の授業で担当者から説明があります。
自己学習に関する指針	先ず覚えること（インプット）とそれを自分で試してみる（アウトプット）ことが大事です。自分の考えや気持ちを伝える時は、「何とか伝えたい」という気持ちを態度に出して何か発することが大事です。
履修上の指導・留意点	英語の基礎力を身につけたい人、英語力を高めたい人は履修してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、高等教育機関（高等専門学校）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米の言語と文化Ⅱ						
担当教員	ダスティン・キッド、中井誠一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020260

授業の概要	この授業では、いわゆる語学としての英語学習のみではなく、英語学習を通して言葉と文化の関係にも思いを致し、言葉と文化の間にある相互的な影響や作用について考えながら、英語の基礎的な四技能を、特に「話す」「書く」の発信型技能に焦点をおきながら身につける。初回授業で1年生共通のプレースメントテストを行い、2回目の授業からA、Bの2クラスに分けて各担当で授業を実施する。
授業の到達目標	1. 英語の基本的あるいは日常的な語彙力がある。 2. 基本的あるいは日常的な語彙を使用した英語表現を「聞く」「読む」作業を通して理解するとともに、「話す」ことを通した積極的なコミュニケーション、「書く」ことによる基本表現ができる。 3. 上記2の技能を可能にする統語的法則（文法）についての基礎理解がある。
授業計画	第1回 1年生共通プレースメントテスト 第2回 イントロダクション（A、Bクラス別） 第3～15回 第2回授業でA、B各担当より示されたクラス別シラバスによって進めます。 期末試験
テキスト	A、B各クラスの担当によって指示されたテキスト、あるいはプリント教材を用います。秋学期開講までには指示する予定です。テキストはプレースメントテストの結果が出て受講クラスが決定されたのち、指示に応じて必ず購入してください。購入価格はおよそ2000円前後の予定です（価格が変更される場合もあります）。
参考文献	担当者が適宜紹介します。
評価方法	毎回の演習、課題の提出、定期試験の得点を合計100点満点で評価します。詳しい説明は2回目の授業で担当者から説明があります。
自己学習に関する指針	英語を話すためには、英語圏や日本の文化についての情報も併せて、先ずは語彙・英語表現を覚えること（インプット）を常日頃から心がけておくことが大事です。インプットが無ければ、アウトプットは不可能です。さらに「相手に伝えたい」という積極的な気持ちも必要です。
履修上の指導・留意点	英語の基礎力を身につけたい人、英語力を高めたい人は履修してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米の言語と文化Ⅲ						
担当教員	玉木 祐子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020270

授業の概要	現代社会の諸問題を扱った英文エッセイを教材とし、演習を通じて大学生レベルの英文読解に必須の語彙、構文、英文法等を習得する。授業では毎回予習用のハンドアウトを配布する。受講生はあらかじめオンライン単語教材 Quizlet とハンドアウトをもとに予習を行い、授業に臨むこととする。授業では、演習の一環として他受講生とのペアワーク、発言等積極的な参加が求められる。教育機関(中・高等学校)での勤務経験があり、経験に基づき基礎的なつまづきや学習上の困難さに配慮し、できる限り学生のニーズに応じた授業を展開する。
授業の到達目標	(1) 平易な英文エッセイを理解できる。 (2) 英文の基本構造を理解できる。 (3) 基礎的語彙・文法を習得する。 (4) 他者と協力をし、課題解決を行う能力を習得する。
授業計画	第1回 オリエンテーション テキスト、予復習に関する説明等 第2回 Unit 1 Small Talk (日常生活) 第3回 Unit 2 Human Relations (人間関係・コミュニケーション) 第4回 Unit 3 Culture and Globalization (言葉・文化) 第5回 Unit 4 Healthy Life (健康・医療) 第6回 Unit 5 Future Careers (職業・キャリア) 第7回 Unit 6 That Shirt Suits You! (ファッション) 第8回 Mid Term 第9回 Unit 8 Do You Like Sports? (スポーツ) 第10回 Unit 9 Let's Do Something Fun! (レジャー・エンタメ) 第11回 Unit 10 Art Appreciation (アート) 第12回 Unit 11 Let's Eat Out! (食) 第13回 Unit 12 A Career in International Business (ビジネス) 第14回 Unit 13 Science for the Future (サイエンス) 第15回 Review 定期試験
テキスト	『TARGET! pre-intermediate 総合英語のターゲット演習【準中級】』/森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / Gordon Myskow 著 / 金星堂
参考文献	教場にて配布 (オンライン資料については Quizlet https://quizlet.com/class/9540800/ を用いる。)
評価方法	Mid Term (45%), 定期試験 (45%), 授業参加度(10%)
自己学習に関する指針	テキストおよび配布資料、オンライン教材を用いて予、復習を行う。
履修上の指導・留意点	授業中は演習形式で行い、受講生にはペアワーク、発言等の場における意欲的な参加を求めます。予習、復習は必須です。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	英米の言語と文化Ⅳ						
担当教員	JMマユロー						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020280

授業の概要	The class offers: A. the opportunity to develop individual writing skills through: 1. analysis of style and word choice employed by representative modern English writers. 2. consolidating grammatical skills. 3. improving vocabulary and word usage. B. a guideline to literary material relevant to future studies.
授業の到達目標	The objectives of the class are: A. To acquire the ability to express ideas in correct, clear and attractive English. B. Gaining confidence when formulating sentences. C. Stimulating self-study of, and interest in English literary sources.
授業計画	1. Introduction to the craft of writing. Discussion of the elements of fiction with special focus on style at both word (vocabulary) and sentence (grammar) level. Discussion on class preparation and materials (texts, dictionaries). 2. Introduction and discussion of Text 1. Detailed analysis of elements (plot, characters, setting, mood, style). 3. Discussion of Composition 1 based on Text 1. Introduction, discussion and analysis of Text 2. 4. Discussion of Composition 2 based on Text 2. Introduction, discussion and analysis of Text 3. 5. Discussion of Composition 3 based on Text 3. Introduction, discussion and analysis of Text 4. 6. Discussion of Composition 4 based on Text 4. Introduction, discussion and analysis of Text 5. 7. Discussion of Composition 5 based on Text 5. Introduction, discussion and analysis of Text 6. 8. Discussion of Composition 6 based on Text 6. Introduction, discussion and analysis of Text 7. 9. Discussion of Composition 7 based on Text 7. Introduction, discussion and analysis of Text 8. 10. Discussion of Composition 8 based on Text 8. Introduction, discussion and analysis of Text 9. 11. Discussion of Composition 9 based on Text 9. Introduction, discussion and analysis of Text 10. 12. Discussion of Composition 10 based on Text 10. Introduction, discussion and analysis of Text 11. 13. Discussion of Composition 11 based on Text 11. General revision of all compositions. 14. General Revision and discussion of main problems. Introduction, discussion and analysis of Text 12. Discussion of exam composition based on Text 12. 15. Recapitulation 16. Examination
テキスト	No textbook (teaching materials will be provided)
参考文献	
評価方法	Evaluation based on: 1. Performance in class (20%) 2. Weekly assignment (50%) 3. Final examination (30%)

自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関や、翻訳事務所（特許部門）での勤務経験を生かしてより実用的な英作文の授業を展開する。

授業科目	中国の言語と文化 I						
担当教員	鳥谷 聡子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020290

授業の概要	中国には56の民族があり、広東語や上海語など、実際には多種の言語や方言が使われている中で、現在中国の標準語になっている“汉语の普通话”を学ぶ。ピンイン、四声、発音から始まり、テキストの会話や作文の練習を通して中国語の基礎を学習する。中国語は漢字を使う言語のため、同じく漢字を使う日本人には親しみを感じる言語ではあるが、文化が違えばその発想も違うため、日本語との違いを通してその文化の違いを感じ取ってもらう。また、中国の音楽や中国人から見た日本の文化に対するエッセイなどに触れて、中国語を通して中国への理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	①ピンイン表記の中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な会話ができる。 ③中国語検定試験準4級レベルを目指す。
授業計画	第1回 中国語ウォーミングアップ、発音・声調・簡体字 第2回 発音練習、人称代詞、動詞述語文 第3回 発音練習、疑問詞疑問文、省略疑問文、指示代詞 第4回 発音練習、名詞の前の修飾語、動詞“是”の文、YES/NOで答える疑問文 第5回 形容詞述語文、主述述語文 第6回 “喜欢”、選択疑問文 第7回 数量の数え方、動詞“有”の文 第8回 “几”と“多少”、助動詞“想” 第9回 方位詞、動詞“在”の文 第10回 介詞“在”、介詞“离” 第11回 連動文、介詞“跟” 第12回 助動詞“要”、文末の“了” 第13回 動詞の後の“了”と文末の“了”、目的語を一度に2つ取れる動詞 第14回 時刻の言い方、介詞“从” 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験
テキスト	「しっかり初級中国語」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	中国の言語と文化Ⅱ						
担当教員	鳥谷 聡子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020300

授業の概要	「中国の言語と文化Ⅰ」に引き続き、中国語(漢語)の基礎を学ぶ。テキストの会話や作文の練習を通して、中国語の文法を学習する。また、中国の音楽や文化に触れるだけでなく、日本の文化を中国語で説明することにもチャレンジする。今後中国人に限らず、台湾やシンガポールなど、多くの中華圏の観光客が日本に来ることが期待されるので、中国語を使って日本、特に島根県や山陰地域の観光地の説明を、観光パンフレット等を利用して学び、その学習で得た中国語で日本や山陰地域の魅力を伝え、相互理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	①ピンイン表記無しで、簡単な中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な日常会話ができる。 ③中国語で自己紹介ができる。 ④中国語検定試験準4級以上のレベルを目指す。
授業計画	第1回 中国語検定試験準4級の説明 第2回 試験対策(1)、動詞の重ね型と動作量“一下” 第3回 試験対策(2)、介詞“给”、助動詞“可以” 第4回 試験対策(3)、100以上の数、時間量を表す語句 第5回 試験対策(4)、助動詞“能”、助動詞“会” 第6回 試験対策(5) 第7回 試験対策(6) 第8回 試験対策まとめ 第9回 過去の経験を表す助詞“过”、持続を表す助詞“着” 第10回 様態補語、進行の表現、“快～了”“要～了”“就要～了” 第11回 回数を表す語句、結果補語 第12回 比較の言い方、副詞“不要”“别” 第13回 方向補語、使役の言い方 第14回 “(是)～的”構文、“有点儿”と“一点儿” 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験
テキスト	「しっかり初級中国語」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみる。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、中国、シンガポールでの就労経験や、中国の中学校での日本語教師の経験を生かして、現場で話されていた生きた中国語や文化、体験を伝えて中国語と中国への理解を深める授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	韓国の言語と文化Ⅰ						
担当教員	崔 貞美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020310

授業の概要	基礎的な韓国語を「読む」「聴く」「話す」というバランスを考えながら身に付けていきます。また、言語を学ぶということは、その背景にある文化を理解することも必要です。そこで歴史、風習にも時々触れていきます。
授業の到達目標	・ハングル(母音、子音)を読めるようにします。 ・簡単な日常会話ができるようにします。
授業計画	第1回 ハングルの特徴、文字の仕組み(教室用語) 第2回 文字と発音1 基本母音、基本子音(平音9コ)、簡単なあいさつ① 第3回 文字と発音2 基本子音(激音5コ、濃音5コ)、簡単なあいさつ② 第4回 文字と発音3 二重母音(11コ)、簡単なあいさつ③ 第5回 文字と発音4 パッチム、2文字パッチム、発音のルール 第6回 第1課《私はクマモトマキです。》(～は)(～です)(～ではありません)(～と申します) 第7回 第1課《私はクマモトマキです。》○グループ練習、韓国人の名字 第8回 第2課《これは何ですか?》(指示代名詞)(疑問詞)(～も) 第9回 第2課《これは何ですか?》○グループ練習、家族の呼称 第10回 第3課《いつありますか?》(～が)(～に)(～ます、～です)(あります、います/ありません、いません) 第11回 第3課《いつありますか?》○グループ練習、韓国料理 第12回 第4課《誰の歌が好きですか?》(～が好きだ、～を好む)(～しない)(～と)(～を) 第13回 第4課《誰の歌が好きですか?》○グループ練習、体の部位 第14回 復習(文字と発音のまとめ)、ハングルとひらがなの対照 第15回 会話(自己紹介) 定期試験(会話も含む)
テキスト	グループで楽しく学ぼう!韓国語(朝日出版社)朴美子他 定価2,500円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況等で10点、総合100点で評価します。
自己学習に関する指針	週に1度しか授業がないので、復習することが上達の近道です。特に発音の練習などは何度も繰り返しやるのがとても大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が6回になると原則試験は受けられません(但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること)。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	韓国の言語と文化Ⅱ						
担当教員	崔 貞美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020320

授業の概要	「韓国の言語と文化Ⅰ」の授業を終了したことを前提に授業を行います。基本会話をグループ練習を通じて身に付くよう学習します。「読む」「話す」ことが大切です。そして「書く」という3段階を経て韓国語を習得していきます。 ハンゲル能力検定5級のレベルを目指します。
授業の到達目標	・ハンゲル(文章)を読めるようにします。 ・様々な場面での会話ができるようにします。 ・言語学習を通じて、韓国文化に興味を持ってもらい、それを機に積極的に異文化に触れていくようにします。
授業計画	第1回 第5課《誕生日はいつですか?》、漢数詞、(～です) 第2回 第5課《誕生日はいつですか?》○グループ練習、辞書における子音、母音の配列 第3回 第6課《郵便局とコーヒーショップがあります》、位置、(～します) 第4回 第6課《郵便局とコーヒーショップがあります》○グループ練習、韓国の教育制度 第5回 第7課《3個1万ウォンです》、固有数詞、副詞 第6回 第7課《3個1万ウォンです》○グループ練習 第7回 第8課《韓国語の授業は何曜日ですか》、時間と曜日、時刻 第8回 第8課《韓国語の授業は何曜日ですか》(～から～まで)、(～だが、～だけど)○グループ練習 第9回 年賀状作成 第10回 第9課《週末に何をしますか》、過去形 第11回 第9課《週末に何をしますか》○グループ練習、(～で) 第12回 第10課《週末に映画を見にいきましょうか》 第13回 第10課《週末に映画を見にいきましょうか》○グループ練習、会話文作成① 第14回 会話文作成② 第15回 後期のまとめ 定期試験
テキスト	グループで楽しく学ぼう! 韓国語(朝日出版社) 朴美子他 定価2,500円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況等で10点、総合100点で評価します。
自己学習に関する指針	グループ会話練習を通して音読の能力を高めていくことに重点をおくので、まず個々の練習を積極的にやるのが大切です。予習をしっかりやりましょう。
履修上の指導・留意点	欠席が6回になると原則試験は受けられません(但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること)。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	しまねの文化を歩く						
担当教員	渡部 周子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020330

授業の概要	文化と一言にいても多彩であるが、「芸術」「教育」をキーワードとして、学んでいくこととする。加えて、今日では、意識することが少なくなってきた時候の変化についても、適宜、言及する。このことにより、日本文化に示された「心性」(メンタリティ)、とりわけ「美意識」について考えて行くことを目標とする。教室での座学を通して学んだ上で、学生自らが文化(短大の近隣である松江を軸として)に接することで、主体的に学び取って行くものとする。
授業の到達目標	地域を糸口として文化についての理解を深め、分析的に説明することができるようになる。
授業計画	第1回 ガイダンス 履修に関する諸注意 第2回 時候と文化1 第3回 教育と文化1 文化施設情報 第4回 調査と資料の活用について 第5回 身近な地域について 1 第6回 身近な地域について 2 第7回 身近な地域について 3 第8回 時候と文化2 第9回 芸術と文化1 第10回 芸術と文化2 第11回 芸術と文化3 第12回 松江の文化の広がり 第13回 時候と文化3 第14回 教育と文化2 学校文化 第15回 統括 (進行順序や内容は変更となる場合がある)
テキスト	プリントを配布する他、講義に際して適宜案内する。
参考文献	海野弘『花に生きる』平凡社、2010年。小原流史編集実行委員会『小原流史』上下巻、財団法人小原流、1996年。熊倉功夫『茶の湯といけばなの歴史』左右社、2009年。島根県立美術館『島根県立美術館ハンドブック』ハーベスト出版、2010年。阪急文化財団逸翁美術館編『復活!不昧公大園祭』阪急文化財団、2013年。平本映子監『知られざる「松江美術工芸研究所」の世界』島根県文化振興財団、2003年。松江観光協会編『和の心 日本の美 松江』松江観光協会、2007年。松江歴史館『松平不昧』山陰中央新報社、2016年。
評価方法	平常点(小課題、コメント等)(65%)、課題(35%)の総合評価となる予定である。
自己学習に関する指針	授業で挙げた事項について、鑑賞する時間を設けること。
履修上の指導・留意点	受講希望者は、1回目の授業に必ず出席すること。出席できない事情がある場合は、必ず事前に連絡をすること。受講生数については制限する場合もありえる。学外の見学に際して、実費での負担が発生することがある。他の曜日や、土日等の課外の時間を含む場合も想定される。受講生数や受講生の理解度等に応じ、授業の順序、進行、評価方法に変更がある場合がある。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	しまね歴史探訪						
担当教員	杉 岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020340

授業の概要	講義・フィールドワーク・プレゼンテーションにより、島根および松江の歴史について学修する。本学が位置する松江は、江戸時代の城下町の雰囲気の色濃く残り、「美しい日本の歴史的風土100選」に選出されている。フィールドワークでは、江戸時代と現在の地図を比較しながら、松江の街中に残る江戸時代の痕跡をたどる。プレゼンテーションでは、フィールドワークを踏まえて松江の城下町を紹介する。
授業の到達目標	1. 地域の歴史について記述することができる。 2. 地域の歴史について口頭で説明することができる。 3. 授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べるすることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス・歴史的にみた島根 第2回 松江藩 第3回 松江城下町① 松江城下町の歴史 第4回 松江城下町② 松江城下町の特徴 第5～6回 フィールドワーク 第7回 プレゼンテーション 第8回 プレゼンテーション・まとめ
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	コメントシートの記述内容30%、プレゼンテーション30%、期末試験40%の割合で評価する。
自己学習に関する指針	・フィールドワークで回ることのできない場所も自主的に歩き、歴史の痕跡を見つけ出してください。
履修上の指導・留意点	・履修人数を制限することがあります。 ・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	異文化理解演習						
担当教員	塩谷 もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020350

授業の概要	島根県立大学の「短期日本語・日本研修」に参加する各国(北東アジア中心)からの研修学生と交流し、互いの文化を学ぶために企画された科目(演習)である。海外の文化を学び、同時に日本(松江)を紹介することを通して、自らの文化と地域を再発見することを目指す。異文化交流に関する講義から基礎知識と留意点を学んだうえで、学生が主体的に松江や留学生の出身国について学習する。留学生に松江を紹介するツアーの企画を行ない、実際に日本語でガイドをする。ツアー後は留学生と協力して成果発表をし、事後学習とレポート課題で異文化との接し方について自らの考えをまとめる。
授業の到達目標	(1)各国の学生との交流により、習慣や考え方の類似点・相違点について学び、多様な人と接する力を身につける。 (2)松江市内ツアーの企画、テーマに沿って松江を紹介することを通して、自らの文化と地域を再発見することができる。 (3)市内ツアーの企画、成果発表などを通じてグループで協力し、課題を成し遂げる力を磨く。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 市内ツアーのテーマを考える 第3回 市内ツアーのテーマに関する発表 第4回 留学生の出身国を理解する 第5回 市内ツアー案の企画 第6回 市内ツアーの再検討とチラシ作成 第7回 交流プログラムの準備とリハーサル 第8回 交流プログラムの準備と最終確認 第9～14回 異文化交流プログラムへの参加 1日目:交流活動(アイスブレイク、市内ツアーの事前学習) 2日目:松江市内ツアー 3日目:成果発表(プレゼンテーション) 第15回 異文化交流を振り返って
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	上水流久彦(他編)2017『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。 片山隆裕(編)2008『アジアから観る、考える:文化人類学入門』ナカニシヤ出版。 平田オリザ2012『分かりあえないことから:コミュニケーション能力とは何か』講談社。
評価方法	演習シート(30%)、口頭発表課題(20%)、レポート課題(50%)
自己学習に関する指針	(1)留学生の出身国について、文献、インターネット、ニュースや新聞報道から日常的に関心を持ち、知識を深める。 (2)日本文化、松江、観光について知識を広め、留学生にしっかりと伝えられる力を身につける。
履修上の指導・留意点	(1)来日する留学生数にあわせ、履修人数を制限・調整する。 (2)連携事業の一環として開講しますので、内容・日程が変更になる可能性がある。また、海外情勢等の都合で、やむをえず中止になる場合もありうる。 (3)参加費として、市内ツアーの実費(交通費・昼食代・施設見学代等)3～4千円程度がかかる。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	へるん探求						
担当教員	松浦 雄二、小泉 凡						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020360

授業の概要	<p>1. 2回の日帰りバス研修によって山陰地方にゆかりの深い作家へるん(ラフカディオ・ハーン/小泉八雲)の足跡地を、訪問、視察する。</p> <p>2. 上記1に先立ち、研修とハーン作品についての事前授業を行う。</p> <p>3. 上記訪問地における「へるん」の文化資源的活用について実践的に学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>1. 事前授業、2回の現地研修に積極的に参加する。</p> <p>2. 五感を通じた体験的学習からハーンの世界への理解を深めることができる。</p> <p>3. ハーンゆかりの地における「へるん」の文化資源的活用について、具体的な意見を述べるができる。</p>
授業計画	<p>島根県・鳥取県のへるんゆかりの地を2回に分けて訪問し、現地研修を行い、終了後には各自レポートを提出する。</p> <p>1. 事前授業：(5~9月に、研修の日程に合わせて実施予定) 作品「杵築」「日御碕」「日本海の浜辺で」「盆踊り」の抜粋講読と訪問地の文化的特色について</p> <p>2. 研修① 出雲大社・日御碕・一畑薬師を訪ねる。 (5~9月の平日または土曜日に実施予定)</p> <p>3. 研修② 大山町の妙元寺・琴浦町の旧中井旅館や花見湯墓地・鳥取県日野町の幽霊滝など、おもに伯耆地方(鳥取県西部)のハーンゆかりの地を訪ねる。琴浦町では地域の方との意見交換会を、妙元寺ではハーンが魅了された「いさい踊り」を見学し習得する。 (5~9月の平日または土曜日に実施予定)</p> <p>※なお、天候その他やむを得ない状況・都合等によって、上記計画における実施時期・内容に変更を生じる場合もある。</p>
テキスト	
参考文献	<p>・小泉八雲名作選集、平川祐弘訳『明治日本の面影』講談社学術文庫(1990年初版)</p> <p>・小泉八雲名作選集、平川祐弘訳『神々の国の首都』講談社学術文庫(1990年初版)</p> <p>・ラフカディオ・ハーン著・池田雅之訳『新編 日本の面影』角川ソフィア文庫(2000年初版)ほか、適宜紹介する。</p>
評価方法	原則として事前授業と2回の研修に参加することが成績評価の基本条件となる。研修終了後にレポートの提出をもとめる。(参加状況80%、レポート20%)
自己学習に関する指針	・事前授業で配布した資料、紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・履修希望者多数の場合は抽選を行う場合がある。2回の研修について、貸切バス・昼食代の負担金として、1回につき1,000円程度が必要となる。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	文化とガイド						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020370

授業の概要	本授業では、松江を中心に山陰両県の観光スポットを英語で効果的に説明ができるようになることを目標とする。そのために必要な語彙と情報を学びながら、歴史や文化に焦点を当てる。さらに、学生が往んでいる場所をより理解し、関心を持てるようになることも目指す。
授業の到達目標	<p>・松江近辺で簡単な観光ガイドをできるようになる</p> <p>・山陰の文化や歴史の知識を深める</p> <p>・実際のガイドに役立つレベルのコミュニケーション能力と英語の語彙・表現力を向上する</p>
授業計画	<p>第1回 Introduction and Overview</p> <p>第2回 Being a Guide for Others (ガイドをするにあたって)</p> <p>第3回 Shimane and Matsue's Appeal (島根と松江の魅力)</p> <p>第4回 Yaegaki Shrine Visit (八重垣神社訪問)</p> <p>第5回 Matsue Castle (松江城)</p> <p>第6回 Izumo Taisha (出雲大社)</p> <p>第7回 Location Guiding (松江城)</p> <p>第8回 Oki Islands (隠岐諸島)</p> <p>第9回 Festivals (祭り)</p> <p>第10回 Iwami Ginzan Silver Mine (石見銀山)</p> <p>第11回 Matsue's Tea Culture (松江のお茶文化)</p> <p>第12回 San'in Mythology (山陰の神話)</p> <p>第13回 Location Guiding (松江城)</p> <p>第14回 Location Guiding (グループで選択した場所)</p> <p>第15回 Review (振り返り)</p>
テキスト	プリントを配布する
参考文献	適宜に配布する
評価方法	課題・宿題 - 30% ガイド実践 - 70%
自己学習に関する指針	山陰両県の観光・歴史・文化に関する情報を収集する。
履修上の指導・留意点	積極的に参加する気持ちで授業に臨む。ガイド実践の前に、事前その場所に行きガイドの下調べやコース決めも大切である。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(ALT、中学校・高等学校教諭)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	読み聞かせの実践						
担当教員	岩田裕子、尾崎智子、内田絢子、沼田友美						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020380

授業の概要	学内の絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を学習の拠点として、絵本の選定と読みの練習を重ね、大学近隣の保育園・小学校に出かけて行き、幼児・児童を対象に読み聞かせを実践する。本科目専用のノートと多面的な評価を取り入れながらP D C Aサイクルを生み出し、実践を重ねながら着実に力をつけていけるように工夫する。
授業の到達目標	①絵本の基礎的知識を身に付け、絵本を解釈・鑑賞する力を修得する。 ②絵本の読み聞かせの知識・技能を身に付け、心こもった読み聞かせができる。 ③実践を通して、挨拶やお辞儀などの基本的なマナーを身に付ける。 ④グループで協力しながら取り組むことができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、班編成 第2回 ポイントのまとめ「おはなしレストラン10か条」の確認 第3回 絵本の選定、絵本の解釈、読み聞かせの練習 第4回 グループ練習 第5回 グループ練習 第6回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践1、待機組はライブラリーで模擬実践 第7回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践2、待機組はライブラリーで模擬実践 第8回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践3、待機組はライブラリーで模擬実践 第9回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践4、待機組はライブラリーで模擬実践 第10回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践5、待機組はライブラリーで模擬実践 第11回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践6、待機組はライブラリーで模擬実践 第12回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践7、待機組はライブラリーで模擬実践 第13回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践8、待機組はライブラリーで模擬実践 第14回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践9、待機組はライブラリーで模擬実践 第15回 保育園のぎ・のぎ小学校での実践10、待機組はライブラリーで模擬実践 まとめ
テキスト	「おはなしレストラン10か条」「作品解釈ノート」「実践記録ノート」など、授業で適宜配布する。 絵本は、おはなしレストランライブラリーの絵本を利用する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業態度・実践に取り組む姿勢(40%)、作品解釈ノート・実践記録ノートなどの活動記録(30%)、自己評価・期末課題の提出物(30%)を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	「おはなしレストランライブラリー」に積極的に足を運び、絵本とともに過ごす時間を楽しんでください。
履修上の指導・留意点	◇総合文化学科・地域文化学科合同で行います。 ◇授業時間以外の実践活動が入ります。 ◇活動用のおはなしレストラン専用ボロシャツ、絵本バッグの代金3,000円程度を徴収します。 ◇なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(小学校・特別支援学校)での勤務経験を生かして、読み聞かせの実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化研修計画 I						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020390

授業の概要	本科目は、1年生の夏期休業期間中に実施する「総合文化研修 I」の事前準備を行うことを目的としている。 「総合文化研修 I」では、鳥根県東部の石見銀山(大田市大森町)においてフィールドワークを実施する予定である。そのための準備として、本科目では、フィールドワークや文化資源に関する基礎知識と、石見銀山および大森町に関する予備的な知識を身につけたうえで、「総合文化研修 I」の実施計画案を作成する。
授業の到達目標	①フィールドワークを行うための基礎的な知識を習得している。 ②文化資源に関する基礎的な知識を習得している。 ③石見銀山と大森町に関して、フィールドワークを行ううえで必要となる基礎的な知識を習得している。 ④フィールドワークの実施計画案を作成することができる。
授業計画	第1回 フィールドワークの基礎(フィールドワークとは何か、フィールドワークを行うために) 第2回 文化資源とは何か(1)(文化資源とは何か) 第3回 文化資源とは何か(2)(文化資源を発掘するために) 第4回 大森町の歴史、町並みと人(世界遺産センター訪問、ガイドによる大森案内) 第5回 大森町を代表する企業(群言堂、中村ブレイス) 第6回 フィールドワークの実施計画案作成(1) 第7回 フィールドワークの実施計画案作成(2) 第8回 まとめ
テキスト	テキストは特に使用しない。
参考文献	『フィールドワーク心得帖 新版』 滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会 2015年 サンライズ出版 『ぐんげんどう』 石見銀山生活文化研究所編 2015年 平凡社 『昭和のくらし博物館』 小泉和子著 2000年 河出書房新社 その他、必要に応じて紹介する。
評価方法	単位認定は、毎回の授業の小レポート(20%)、課題レポート(40%)、フィールドワークの実施計画案(40%)によって総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	*この科目は「総合文化研修 I」に参加する学生(20名程度)を対象として開講する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化研修 I						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020400

授業の概要	本科目は、以下のことを目的として1年生の夏期休業期間中に2泊3日のフィールドワークを行う演習科目である。①フィールドワークの難しさを知るとともに、その楽しさをも体感すること。②フィールドに出て実際に様々な体験をすることを通して、地域の社会や文化に対する興味・関心を高めること。本科目のフィールド候補地としては、島根県東部の石見銀山(大田市大森町)を予定している。
授業の到達目標	①フィールドワークを行うための基礎的な知識と技能を習得している。 ②「総合文化研修計画Ⅰ」で作成した計画に沿ってフィールドワークを行うことができる。 ③フィールドで学んだことを自分の言葉で説明することができる。
授業計画	<事前学習> ・日程確認、グループ編成、注意事項など <1日目> ・石見銀山間歩ツアー ・生活文化調査(1)(群言堂、中村プレイス、地元の方々) <2日目> ・熊谷家住宅にて昔の生活体験 ・生活文化調査(2)(熊谷家住宅、地元の方々) <3日目> ・生活文化調査(3)(各自フィールドワーク) <事後学習> ・発表会 ・礼状書きなど
テキスト	テキストは特に使用しない。
参考文献	『ぐんげんどう』 石見銀山生活文化研究所編 2015年 平凡社 『昭和のくらし博物館』 小泉和子著 2000年 河出書房新社 その他、必要に応じて紹介する。
評価方法	単位認定は、毎日の活動について的小レポート(20%)、成果発表会でのプレゼンテーション(40%)、課題レポート(40%)によって総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	*この科目はフィールドでの演習科目であるため、受講登録できる学生を20名程度とする。 *交通費・宿泊費・食費などの実費は、受講生から徴収する(1万5千円程度の見込み)。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化研修計画Ⅱ						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M8020410

授業の概要	アメリカ合衆国ワシントン州にあるセントラルワシントン大学で行われる語学研修の事前研修を行い、参加する学生に十分の準備ができる機会を与える。アメリカで元気で過ごすために必要な情報を伝え、学生が研修中で交流できるようにプレゼンテーションの準備もさせる。
授業の到達目標	授業テーマ：語学研修に参加する学生が一人ひとり、アメリカで有意義な時間を過ごせるため、そしてできる限りの英語学習と異文化交流ができるための準備。 到達目標：①自己紹介及び個人目標を英語で伝えるようになる、②グループに分かれてアメリカで発表するプレゼンテーションを完成させる、③研修に必要な知識を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、グループ分け、役割決定 第2回 グループプレゼンテーションの内容決定 第3回 研修プログラム歴史と狙い 第4回 出国・入国審査、税関について 第5回 荷物について(預かり荷物、持ち込み荷物など) 第6回 一回目のプレゼンテーション練習 第7回 旅行代理店の説明 第8回 アメリカのお金(特に硬貨)、チップのルール 第9回 アメリカの日常生活やマナーについて 第10回 ワシントン州とエレンズバーグ市の概要 第11回 二回目のプレゼンテーション練習 第12回 セントラルワシントン大学の概要、寮の生活 第13回 アンダーソン・ヘイ(企業訪問先)の紹介 第14回 行先の気候、体調管理 第15回 グループプレゼンテーション、結団式 ※内容を変更する可能性があります。
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	・自己紹介と個人の目標の発表 - 30% ・グループプレゼンテーション - 30% ・スクラップブック - 30% ・取り組み態度 - 10%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(ALT、中学校・高等学校教諭)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	総合文化研修Ⅱ						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	60	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020420

授業の概要	Language & Culture の授業(3時間/平日)受講、現地大学生との交流、地元主要産業の牧草会社訪問、学長・副学長などとの交流会、日本や島根、大学等を紹介するプレゼンテーションの実施など。その他、地元の美術館・博物館訪問、ドイツ村観光、牧場での乗馬、大リーグ観戦等を通して、アメリカ文化を体験する。
授業の到達目標	・セントラルワシントン大学で、UESL が提供する約3週間の研修に参加する。語学・文化講座の受講、現地大学生との交流、企業訪問、文化体験などを通して、多文化社会アメリカについての理解を深めるとともに、英語でのコミュニケーション力の向上、および国際的視野の醸成を目的とする。 [到達目標] ①英語でのコミュニケーション能力を、授業の受講、現地での生活に十分なレベルまで向上させる。 ②アメリカでの学びや体験を説明できる。 ③主体的に英語学習に取り組み、異文化理解を深めようとする姿勢を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 英会話(好き嫌い、やってみたいこと)、ワシントン州の地理 第3回 英会話(買い物)、開拓時代のアメリカ 第4回 英会話(道の訪ね方)、エレンズバーグ市の歴史 第5回 英会話(趣味)、エレンズバーグ市の散策、歴史館訪問 第6回 英会話(スポーツ)、シアトル市の名所と歴史 第7回 英会話(将来の夢)、レーニア山の自然 第8回 英会話(家族について)、アメリカの原住民の歴史と文化 第9回 英会話(応援の仕方)、アメリカの野球 第10回 英会話(故郷紹介)、乗馬の必要知識 第11回 英会話(大学生の生活)、ロスリン市の歴史と文化 第12回 英会話(アメリカの礼儀)、キティタスバレーの現在企業、地元の企業訪問 第13回 英会話(理想の生活)、レヴェンワース市の歴史とドイツとの関係 第14回 英会話(アメリカの思い出)、ギンコ化石森の歴史 第15回 英会話(別れのスピーチ)、川下りの注意点 課題レポート提出 ※内容を変更する可能性があります。
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	事前研修への出席および事後のレポート提出と報告会実施:30% (大学での担当者が評価) 現地での研修:70% (UESL プログラム担当者・授業担当教員が、授業での学びやその他の研修への参加姿勢などを評価)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	「総合文化研修計画Ⅱ」の受講も必要。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(ALT、中学校・高等学校教諭)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

短期大学部・総合文化学科
(令和2年入学生用)

授業科目	海外企業研修						
担当教員	総合文化学科教員						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M8020430

授業の概要	グローバル化が進展するなかで、グローバル化や国際化に対応できる人材の社会的ニーズが高まっています。また今後、皆さんが活躍する舞台は、日本国内に留まらず、世界に開かれています。 グローバル化や国際化に対応する力は、語学力だけではありません。海外のビジネス動向・慣習・産業構造等の知識が必要になります。また外国人の思考様式やコミュニケーション様式に触れ、それらに対応する力も求められます。 海外企業研修は、グローバル化・国際化に対応できる力を培い、世界に眼を向けながら活躍するための第一歩を踏み出す授業です。
授業の到達目標	①海外のビジネス動向・思考様式・コミュニケーションの在り方について理解を深めることができる。 ②グローバルな視野から日本企業および海外企業の位置・役割を見据え、企業研究に活用できる。 ③海外で得た学びを自己成長と将来のキャリア形成に活用できる。
授業計画	訪問する国での滞在は、約1週間を予定しています。実習に先立ち、履修者は、事前研修(3回程度)に出席する必要があります。事前研修は、合計3回実施する予定です。詳しい事前研修の日程については、説明会等でお知らせします。 企業訪問では、グローバルに展開する企業等を対象とし、企業見学・企業スタッフとの対話などを行います。大学訪問では、現地大学生との意見交換・交流・ディスカッションなどを行います。研修後は、報告書と日誌を提出します。
テキスト	プリントを配布します。 適宜、ワークシート等を配布し、活用します。
参考文献	適宜、紹介します。
評価方法	・事前研修への参加姿勢:20% ・実習状況と日誌の内容:50% ・報告書の内容:30%
自己学習に関する指針	他の学生と協力し、課題解決型のワークに積極的に取り組んでください。
履修上の指導・留意点	○参加学生が決定してから、学生に代わって授業担当者が履修登録を行います。 ○海外企業研修の内容や応募方法・応募締め切りについてお知らせする説明会の詳しい日時については、後日、メールやチラシ等でお知らせします。 海外企業研修の応募を考えている学生は、説明会に参加してください。 そして決められた締め切り日までに、応募書類を提出してください。 ○応募者から選抜して、参加者を決定します。参加定員は、12名程度です。 そのうち松江キャンパスからは、2名程度参加予定です。 ○選抜の結果、参加できない場合もあります。 また、研修では、課題解決型のワーク等に取り組むため、学生のチームを編成します。 ○学生のチームを編成するため、選抜の結果、松江キャンパスからの参加学生も含めて参加学生が原則として5名に満たない場合は、研修を実施しませんのでご注意ください。 ○申し込み方法等については、説明会やメール・チラシ等でお知らせするので、メール等を頻りにチェックしておくこと。